考古展

第 8 回

小さな展覧会

—昭和63年度発掘調査の成果から—

1989. 8

財団法人　京都府埋蔵文化財調査研究センター

馬形埴輪(上人ヶ平遺跡)

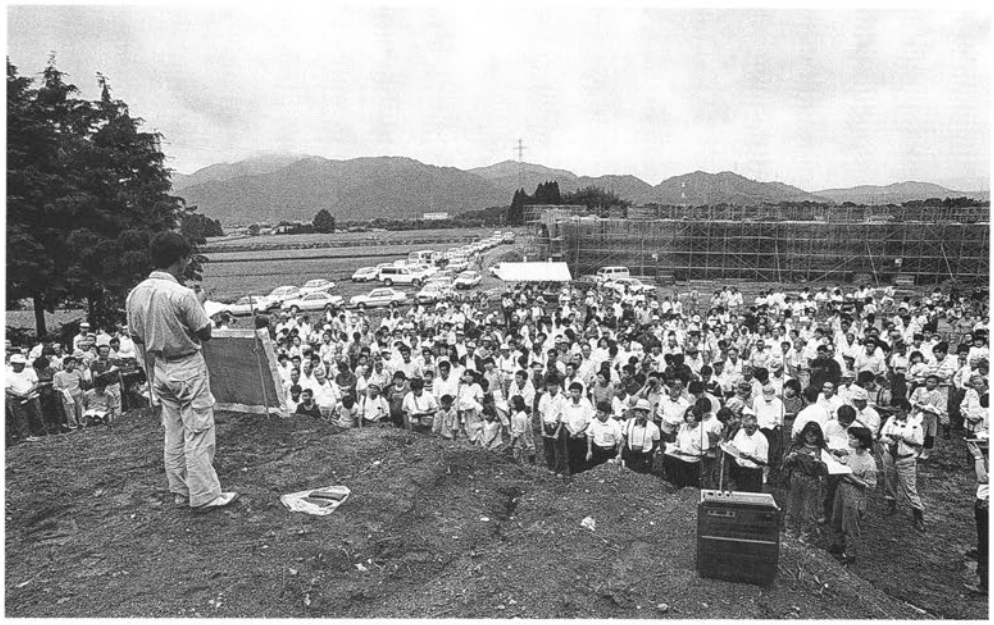
華南三彩盤(平安京跡)

昭和63年度の発掘調査について

財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センターでは，昭和63年度に，久美浜町から木津町に及ぶ府内全域にわたって，41件の発掘調査を実施しました。個々の調査の概要については，次ページの一覧表のとおりです。調査は，農地開発・ほ場整備・河川改修・道路建設・工業団地造成・建物新築・宅地造成に先立って記録保存を目的として行ったものです。

丹後地域の国営農地開発にともなう調査は，アバ田東古墳・遠所（えんじょ）古墳群・スクモ塚古墳群などの古墳の調査が中心となりました。河川改修による舞鶴市桑飼上（くわがいかみ）遺跡の調査では，奈良時代の整然と並んだ建物跡がみつかり，豪族の館，あるいは地方の役所ではないかと注目されました。道路建設に先立つ調査では，近畿自動車道敦賀線の建設にかかわって，綾部市私市円山（きさいちまるやま）古墳の全容が明らかとなり，大きな話題となりました。この古墳は，府内最大(全長81m)の円墳で，保存状態もよく，現状で保存されることとなりました。宅地造成にともなう，木津町上人ヶ平（しょうにんがひら）遺跡の調査では，8基の古墳と埴輪を焼いた窯跡などがみつかりました。埴輪の生産地と供給先がともに明らかとなったことに関心が寄せられています。

このように，昨年度の発掘調査によっても大きな成果を得ることができました。こうした調査の成果により，京都府の歴史や昔の人々のくらしが徐々に明らかになると思います。



綾部市私市円山古墳 現地説明会(昭和63年9月)

昭和63年度発掘調査遺跡一覧表

㈶京都府埋蔵文化財調査研究センター調査

番号	遺跡名	種別	所在地	担当者	調査期間	概要
1	日光寺遺跡	集落跡	久美浜町浦明	荒川　史 森島康雄	63.7.21 ～元.1.21	鎌倉時代の古墓3基，古墳時代中期の竪穴式住居跡5基，奈良時代の掘立柱建物跡
2	アバ田東古墳	古　墳	久美浜町新庄	荒川　史	63.4.19 ～63.5.17	古墳時代の木棺直葬墳
3	アサバラ遺跡	集落跡	久美浜町新庄	荒川　史	63.4.20 ～63.7.20	古墳時代の竪穴式住居跡3基，溝，横穴式石室(アバ田東3号墳)
4	鳥取城跡	城館跡	久美浜町浦明	森島康雄	63.4.21 ～63.8.6	弥生時代後期の土坑・溝，室町時代の溝
5	堤谷古墳群	古　墳	久美浜町丸山	荒川　史	63.8.3 ～63.11.29	古墳時代中期の木棺直葬墳3基
6	川向1号墳	古　墳	久美浜町大井	荒川　史	63.11.16 ～63.12.23	古墳時代後期の横穴式石室墳1基
7	大谷古墳状隆起	古　墳	網野町島津	中川和哉	63.6.1 ～63.7.25	遺構・遺物なし
8	遠所古墳群	古　墳	弥栄町木橋	増田孝彦 中川和哉	63.6.1 ～元.2.23	古墳時代中・後期の群集墳（木棺直葬墳及び竪穴系横口式石室）22基
9	スクモ塚古墳群	古　墳	弥栄町吉沢 峰山町内記	増田孝彦 中川和哉	63.4.18 ～63.7.8	古墳時代中期の木棺直葬墳4基
10	温江遺跡	集落跡	加悦町温江	森　正	63.10.11 ～元.2.25	弥生時代後期の土坑，はしごが出土
11	下畑遺跡	集落跡	野田川町下畑	中川和哉	63.7.25 ～63.8.12	遺構・遺物なし
12	休場古墳	古　墳	野田川町水戸谷	森　正	63.7.18 ～63.9.14	古墳時代後期の横穴式石室墳
13	桑飼上遺跡	集落跡	舞鶴市桑飼上	細川康晴 肥後弘幸	63.4.12 ～元.3.10	古墳時代中期の竪穴式住居跡9基，奈良時代の掘立柱建物跡14棟
14	興遺跡	集落跡	福知山市興	田代　弘	63.11.24 ～元.3.15	弥生時代中期の溝・分銅形土製品，鎌倉・室町時代の掘立柱建物跡
15	観音寺遺跡	集落跡	福知山市観音寺	岡崎研一	63.11.24 ～元.3.15	弥生時代の溝，鎌倉・室町時代の柱穴
16	私市円山古墳	古　墳	綾部市私市町	竹原一彦 鍋田　勇	63.4.11 ～63.12.23	古墳時代中期の造り出しをもつ大円墳，3基の主体部より武器・武具・玉類出土
17	馬場池東方遺跡	散布地	綾部市私市町	黒坪一樹	63.11.7 ～元.2.23	顕著な遺構・遺物なし
18	三宅遺跡	集落跡	綾部市豊里町	竹原一彦	63.4.21 ～元.1.25	弥生時代中期の方形周溝墓，古墳時代前期の土坑群
19	福垣北古墳群	古　墳	綾部市豊里町	田代　弘	63.4.14 ～63.8.31	古墳時代中期の古墳4基，うち1基は木棺直葬の主体部を確認
20	舘1号墳	古　墳	綾部市舘町	田代　弘	63.10.3 ～63.11.1	墳丘を削平された古墳
21	赤田遺跡	集落跡	綾部市位田町	黒坪一樹	63.5.19 ～63.8.12	古墳時代後期の竪穴式住居跡2基
22	火柴原古墳状隆起	古　墳	福知山市石原	竹原一彦	元.2.1 ～元.3.15	遺構・遺物なし，池改修時の盛土
23	青野西遺跡(第4次)	集落跡	綾部市青野町	引原茂治	63.5.20 ～63.10.22	古墳時代前期の竪穴式住居跡5基・溝，平安時代の掘立柱建物跡1棟・溝
24	淵垣城跡	城館跡	綾部市淵垣町	引原茂治	63.11.1 ～元.1.27	顕著な遺構・遺物なし(北谷城と改める)
25	岡安城跡	城館跡	綾部市淵垣町	引原茂治	63.11.1 ～元.2.17	顕著な遺構・遺物なし(西八田城と改める)
26	千代川遺跡(第14次)	集落跡	亀岡市千代川町	小池　寛 鵜島三寿	63.4.17 ～元.2.17	丹波国府推定地北限の溝，平安時代の掘立柱建物跡3棟，鎌倉時代の掘立柱建物跡・井戸

番号	遺　跡　名	種　別	所　在　地	担当者	調査期間	概　　要
27	平安京跡	都城跡	京都市上京区	伊野近富 岩松　保	63.4.6 ～63.8.10	西洞院通と近衛大路の変遷，戦国時代の便所跡，華南三彩盤
28	長岡宮跡(宮205次)	都城跡	向日市鶏冠井町	竹井治雄	63.4.11 ～63.6.29	藤原京期の掘立柱建物跡，長岡京期の掘立柱建物跡・溝
29	長岡京跡(左202次)	都城跡	向日市上植野町	竹井治雄	63.8.1 ～63.9.27	長岡京期の掘立柱建物跡・溝・土坑，漆の付着した土器
30	長岡京跡(左200次)	都城跡	長岡京市馬場	戸原和人 三好博喜	63.7.18 ～元.3.10	長岡京推定六条大路の側溝
31	長岡京跡(右306次)	都城跡	長岡京市粟生	岩松　保	63.6.1 ～63.7.24	古墳時代後期～飛鳥時代の掘立柱建物跡5棟以上
32	長岡京跡(右310次)	都城跡	長岡京市今里	石尾政信	63.7.5 ～元.3.28	長岡京期の西二坊大路東側溝・掘立柱建物跡1棟，木簡4点
33	山崎津跡	官衙跡	大山崎町大山崎	竹井治雄	63.11.8 ～63.12.15	平安時代の柱穴，江戸時代の井戸
34	木津川河床遺跡	集落跡	八幡市八幡	岩松　保	63.10.20 ～元.3.1	中世の小溝群，安土・桃山時代の噴砂，古墳時代の竪穴式住居跡
35	内里八丁遺跡	散布地	八幡市内里	三好博喜	元.2.1 ～元.3.8	木津川旧河道
36	小田垣内遺跡	城館跡	田辺町普賢寺	伊野近富	63.8.17 ～元.3.11	室町時代の堀・土塁，石仏，蔵骨器
37	上人ヶ平遺跡	集落跡	木津町市坂	石井清司	63.9.12 ～元.3.13	古墳時代中期の古墳8基，古墳時代中期の埴輪窯1基
38	瓦谷遺跡	集落跡	木津町市坂	伊賀高弘	63.4.19 ～元.1.19	上人ヶ平1号埴輪窯の灰原
39	瀬後谷遺跡	散布地	木津町市坂	伊賀高弘	63.11.21 ～63.12.21	丘陵斜面の磁気探査
40	幣羅坂1・2号墳	古　墳	木津町市坂	石井清司	63.6.29 ～63.9.26	2号墳は，古墳時代中期の木棺直葬墳，埴輪・鉄器・玉類出土
41	木津遺跡	集落跡	木津町木津	岩松　保	63.8.10 ～63.10.4	奈良時代の墓・掘立柱建物跡，近代の製糸工場建物跡

日光寺遺跡（にっこうじいせき）

（㈶京都府埋蔵文化財調査研究センター）

古墳時代～鎌倉時代
久美浜町浦明

調査地全景（北から）

墓から発見された中国製青磁椀

日光寺遺跡は，久美浜湾にのぞむ台地上にあります。古墳時代の竪穴式住居跡（たてあなしきじゅうきょあと）や，飛鳥～平安時代の掘立柱建物跡（ほったてばしらたてものあと），鎌倉時代の墓などがみつかりました。掘立柱建物跡は，南北11m・東西5mと比較的大きなものです。鎌倉時代の墓は楕円形で，ほぼ同じ大きさのものが2基並んでいました。片方の墓には，完形の中国製青磁椀が納められていました。この二つの墓は夫婦を葬ったものかもしれません。

そのほか，この遺跡から石鏃（せきぞく），碧玉（へきぎょく）の原石，須恵器の杯蓋，こね鉢，土師器杯，土錘（どすい）などが出土しました。

鎌倉時代の墓

青磁椀

遠所古墳群（えんじょこふんぐん）

（㈶京都府埋蔵文化財調査研究センター）

古墳時代中・後期
弥栄町木橋

調査地全景（東から）

群集墳を完掘

遠所古墳群は，丹後半島のほぼ真ん中にある弥栄町西端の入り組んだ丘陵部に営まれた古墳群です。現在まで22基の古墳が確認されており，そのうち３基が方墳で，その他はすべて円墳です。円墳は直径10～20m前後の規模で，最大の９号墳は，直径21m・高さ３mです。埋葬施設は，木棺を直接納めたもの（木棺直葬（もっかんじきそう））と，花こう岩で木棺を安置する部屋を築いた石室（竪穴系横口式石室）をもつものの２種類がありました。この石室は，棺を安置する玄室への通路（羨道（せんどう））が簡略化されたものです。

出土遺物には，鉄刀，鉄鏃，刀子（とうす），馬具，須恵器，土師器，玉類などがあり，これらの遺物からこの古墳群は，５世紀末から６世紀後半（約1,500年から1,400年前）に造られ，６世紀末ごろ（約1,400年前）に石室墳への追葬が行われたことがわかります。

須恵器

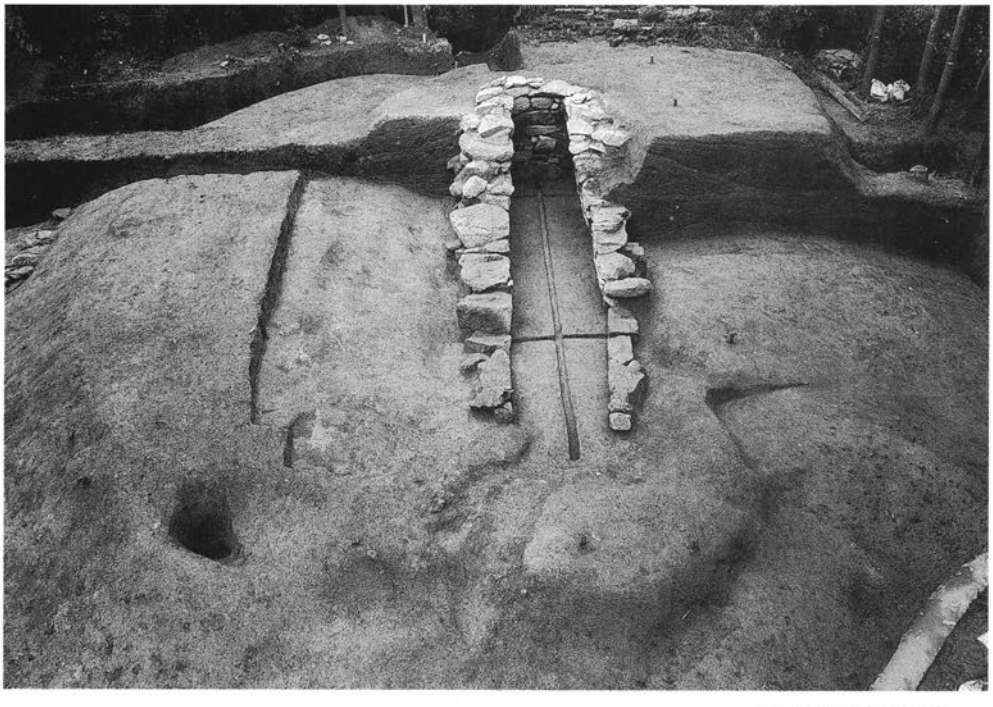
須恵器・壺

土師器・壺

休場古墳（やすみばこふん）

（㈶京都府埋蔵文化財調査研究センター）

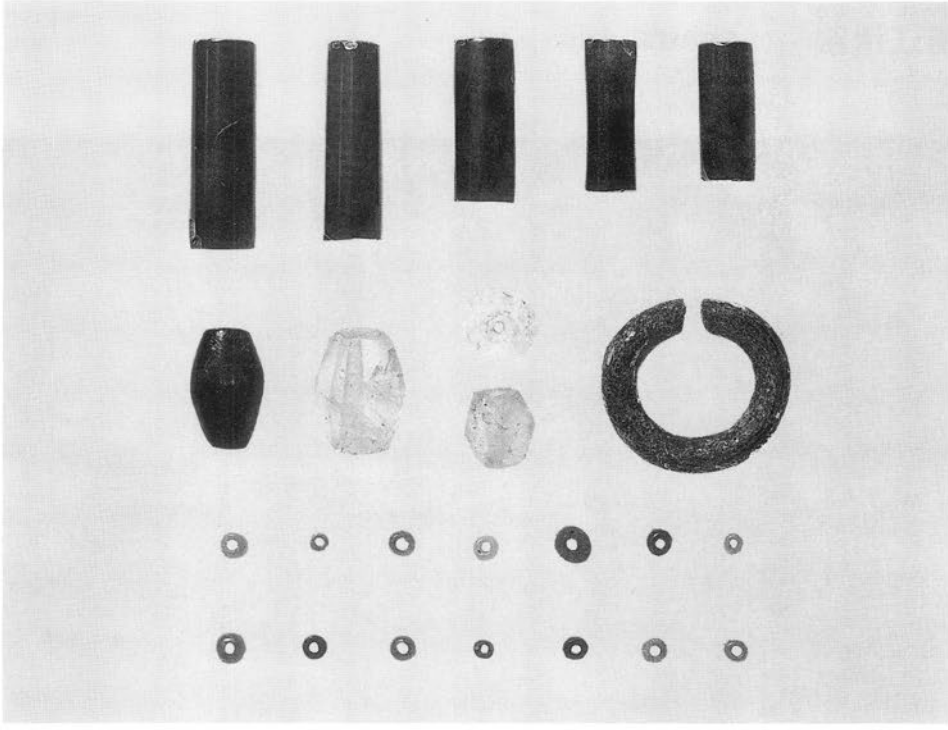
古墳時代後期
野田川町水戸谷



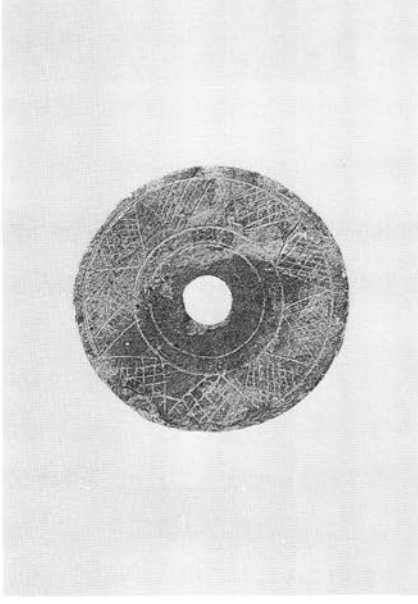
調査地全景（南から）

谷間の古墳

休場古墳は，水戸谷（みとだに）と呼ばれている野田川下流域の丘陵先端部に営まれた古墳です。発掘調査の結果，直径17m・高さ３mの円墳とわかりました。埋葬主体は，花こう岩で木棺を安置する部屋を築いた横穴式石室で，その規模は，幅1.3m・長さ6.1m・高さ1.7mを測ります。この石室の床面の平面形は，入口から奥までほぼ同じ幅の「コ」の字をした無袖式といわれるものです。石室の中からは，30点あまりの須恵器，刀子，鉄鏃，紡錘車（ぼうすいしゃ），碧玉（へきぎょく）製管玉，水晶製切子（きりこ）玉・ガラス小玉・ナツメ玉などの玉類のほか，人骨，歯なども出土しました。また，この古墳の裾には，同じく花こう岩を使用した小さな竪穴式石室が造られていました。その規模は，長さ1.1m・幅0.4m・高さ0.5mを測ります。中からは鉄製の刀子が１点出土しています。この古墳が造られたのは，６世紀末（今から約1,400年前）ごろと考えられます。



金環・玉類



紡錘車

須恵器・瓶

温江遺跡（あつえいせき）

（㈶京都府埋蔵文化財調査研究センター）

弥生時代
加悦町温江

はしご出土状況

残されたはしご

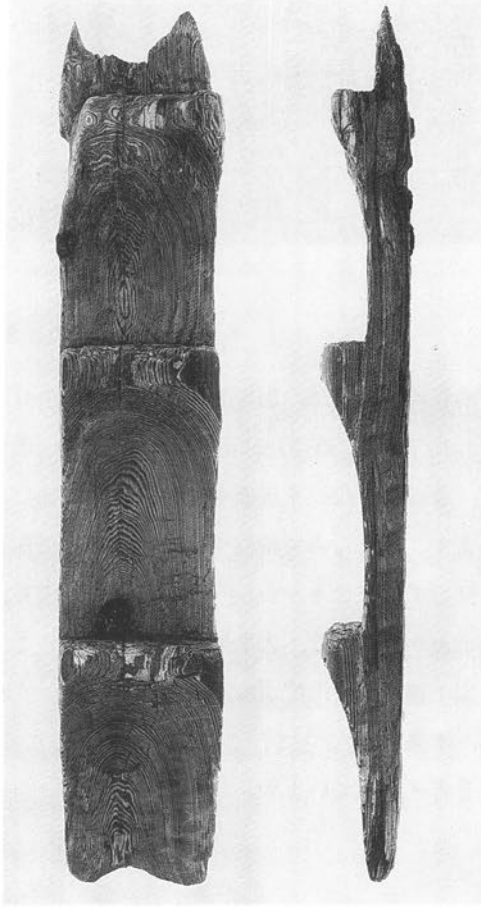
温江遺跡は，加悦谷（かやだに）の野田川東岸にあり，東西約600m・南北約800mの広がりを持つ遺跡です。昭和42年ほ場整備が行われたとき，多くの弥生土器が採集され，弥生時代の大きなムラがあったと考えられています。

今回の調査では，多くの土坑（どこう）と，竪穴式住居跡などがみつかりました。土坑の一つからは，中に出入りするための「はしご」が立てられたままで残っていました。このはしごは，一本の木を削り出して作ったもので，底から３段分，長さ約１mが残っており，弥生時代後期（今から約1,800年前）のものとわかりました。このように，使われた状態で残っていたはしごは，他に例のない貴重なものです。そのほか，木製のスキ，斧（おの）の柄，土器などが出土しました。

弥生土器・甕

弥生土器・壺

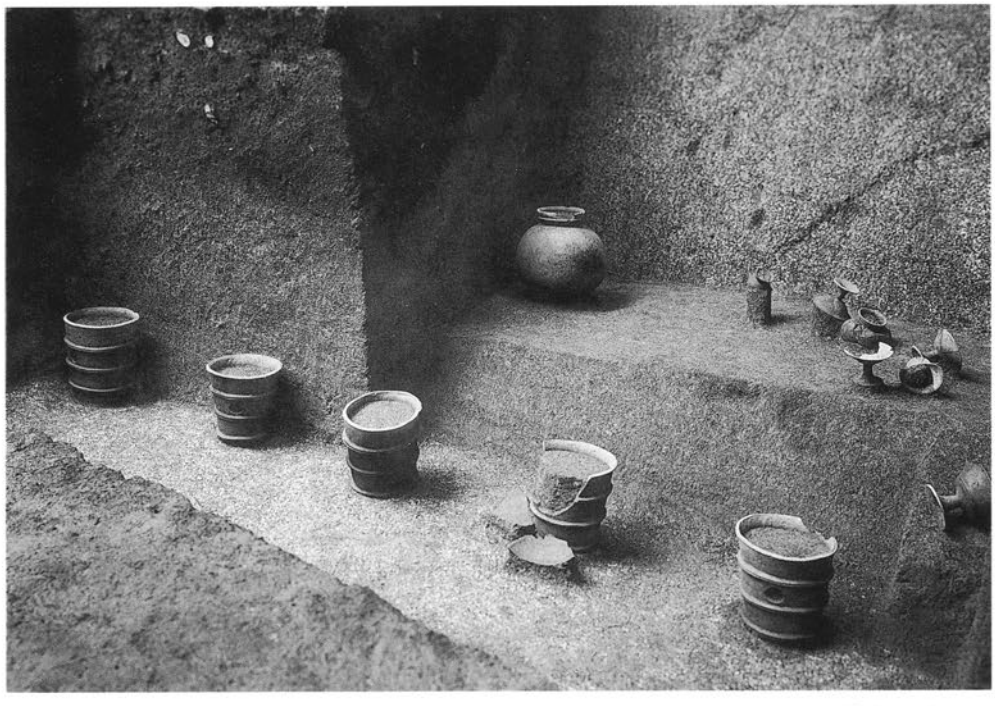
弥生土器・壺



はしご

しぎたにひがし　ごうふん
鴫谷東１号墳　（立命館大学文学部）

古墳時代中期
加悦町温江



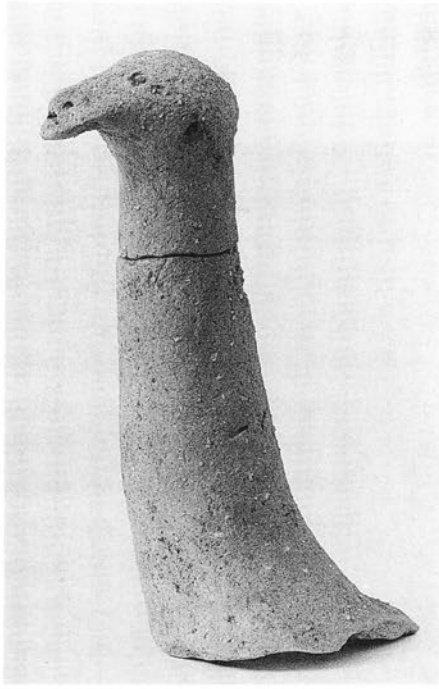
円筒埴輪・土師器出土状況

築造時の姿そのまま，加悦谷の大円墳

鴫谷東１号墳は，加悦谷の野田川東岸の丘陵上に位置します。今まで３回の発掘調査が行われており，直径約50m前後，高さ11m，南側に長方形の壇（だん）をもつ円墳と考えられています。墳丘は２段の平坦面を持ち，各平坦面には円筒埴輪列が巡り，斜面には石が葺かれています。これらの埴輪列や葺石はきわめて保存状態のよいものです。埴輪列にまじって柱が立っていたことがわかりました。また墳丘南側の埴輪列の外には大小の壺，高杯がまとめておかれており，古墳を造ったあと，ここでおまつりを行っていたようです。

出土遺物は，円筒埴輪，朝顔形埴輪，合子（ごうす）形特殊埴輪，形象埴輪（蓋（きぬがさ），家，盾，甲（よろい），冑（かぶと），鞆（とも），水鳥，鶏）などで，これらの遺物からこの古墳は５世紀前半（今から約1,550年前）の築造と考えられています。

鞆形埴輪



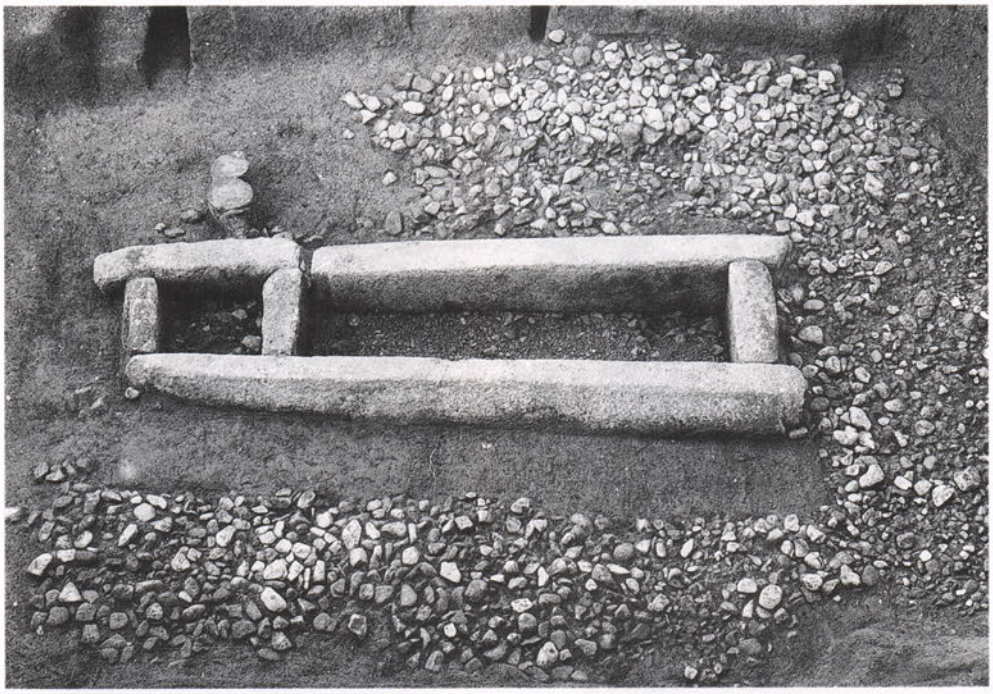
水鳥形埴輪

土師器・壺

円筒埴輪

つくりやま こ ふんぐん
作山古墳群　（加悦町教育委員会）

古墳時代前・中期
加悦町加悦



1号墳石棺出土状況（西から）

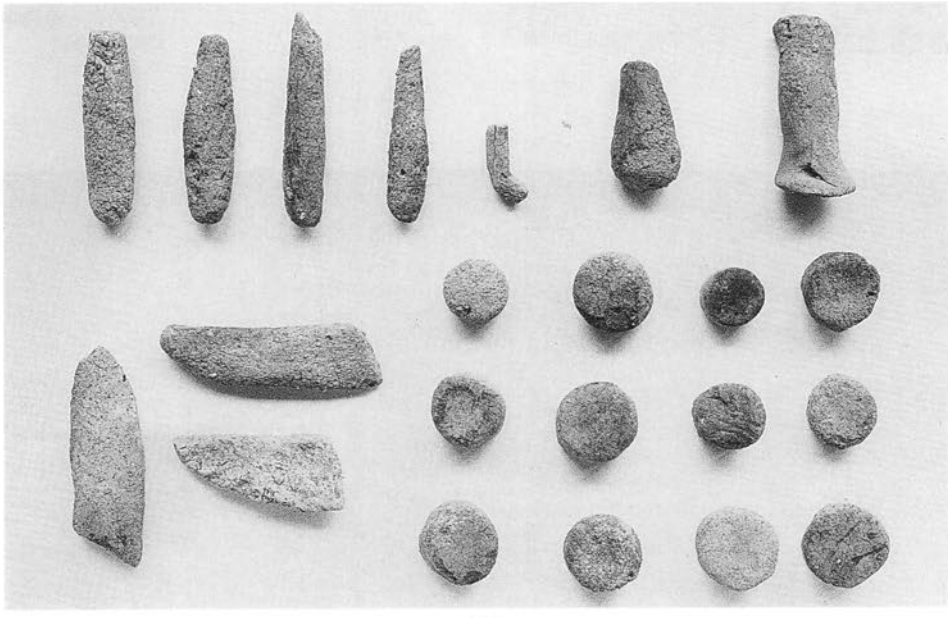
60年ぶりに姿を現わした石棺

作山古墳群は，野田川東方にある丘陵の先端部に位置します。4基の古墳からなり，1号墳は直径30mの円墳，2号墳は直径26mの円墳，3号墳は一辺17mの方墳，4号墳は全長30mの前方後円墳で，東側には，丹後三大前方後円墳の一つである蛭子山古墳（全長145m）が存在し，ともに国の史跡に指定されています。

1号墳には全長2.7mの組合式石棺が納められています。この石棺はかたい花こう岩をていねいに加工し，内面に朱を塗ったものです。

60年前の発掘調査では，石棺の中から人骨，鏡，腕輪（石釧），玉類，鉄製品などが発見されていましたが，今回の調査では，あらたに合子形特殊埴輪，朝顔形埴輪，祭祀用の土製品などが出土しました。ほかに，鹿の絵をヘラで描いた珍しい埴輪片もあります。これらの古墳は，4世紀末から5世紀ごろ（今から約1,500年前）に造られたと考えられます。

最近，蛭子山古墳とともに全面的に環境整備する計画が具体化し，なお一層保存と活用の両面がはかられることとなりました。



土製品

土製品

鶏形土製品

合子形特殊埴輪

桑飼上遺跡（くわがいかみいせき）

（㈶京都府埋蔵文化財調査研究センター）

古墳時代～奈良時代
舞鶴市桑飼上

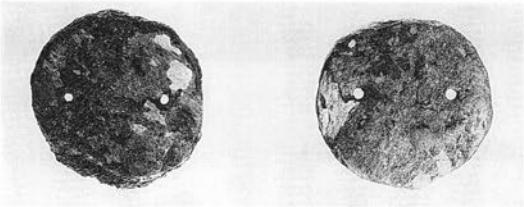
掘立柱建物跡群検出状況

古代の役所？豪族の館？

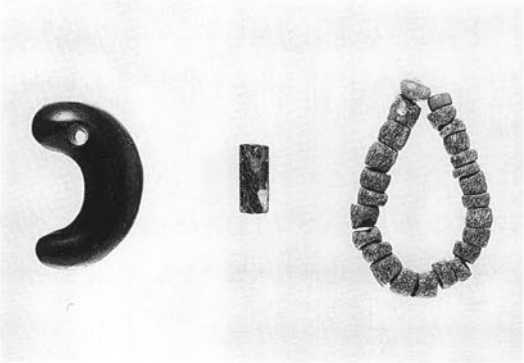
桑飼上遺跡は，舞鶴市の西端，由良川南岸の自然堤防上に位置します。この遺跡の上層からは整然と建てられた12棟以上の掘立柱建物跡がみつかりました。この建物跡の中には，東西棟の大規模なものや，倉庫状のものもありました。この建物跡群は奈良時代の豪族の「やかた」，あるいは役所の跡と考えられます。

下層からは，竪穴式住居跡が10基みつかりました。この住居跡の平面はすべて四角形で，中から滑石製臼玉（かつせきせいうすだま），有孔円板（ゆうこう），土師器，須恵器，玉類などが出土しました。これらは，古墳時代中期に建てられたものと考えられます。

竪穴式住居跡検出状況



有孔円板



玉類

土師器・壺

興遺跡（おきいせき）　（㈶京都府埋蔵文化財調査研究センター）

弥生時代～室町時代
福知山市興

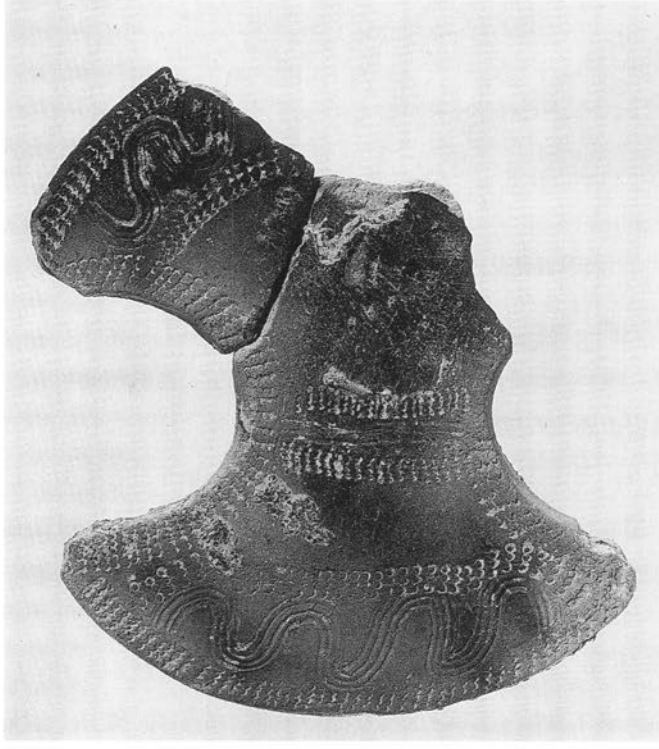
調査地全景（南から）

ナゾの祭祀遺物―分銅形土製品

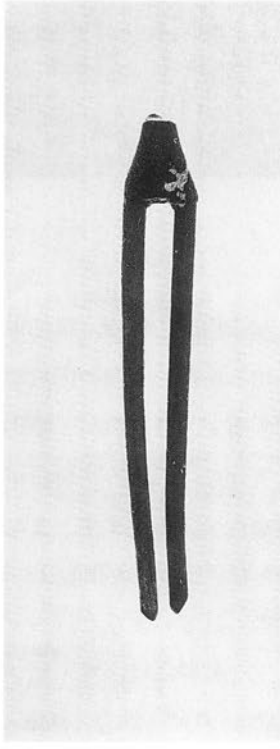
興遺跡は，福知山市の東部，由良川南岸の平野部に位置する，弥生時代から室町時代に至る複合集落遺跡です。今回の発掘調査では，上層から，鎌倉・室町時代の掘立柱建物跡や土坑，柱穴，古墓などが見つかり，土師器皿，短刀，釘，青磁椀などが出土しました。下層からは，弥生時代中期の溝や土坑，柱穴などがみつかりました。弥生時代の溝は，村を取りまく環濠（かんごう）であった可能性があります。

そして溝の中から分銅形土製品（ふんどうがたどせいひん）１点のほか，壺や甕などの土器がたくさん見つかりました。分銅形土製品は，岡山地方に多く見られるもので，おまつりの時に土面として使われたのではないかと言われています。そのほか，一つの土坑から木製のかんざしが出土し，注目されています。

分銅形土製品出土状況



分銅形土製品

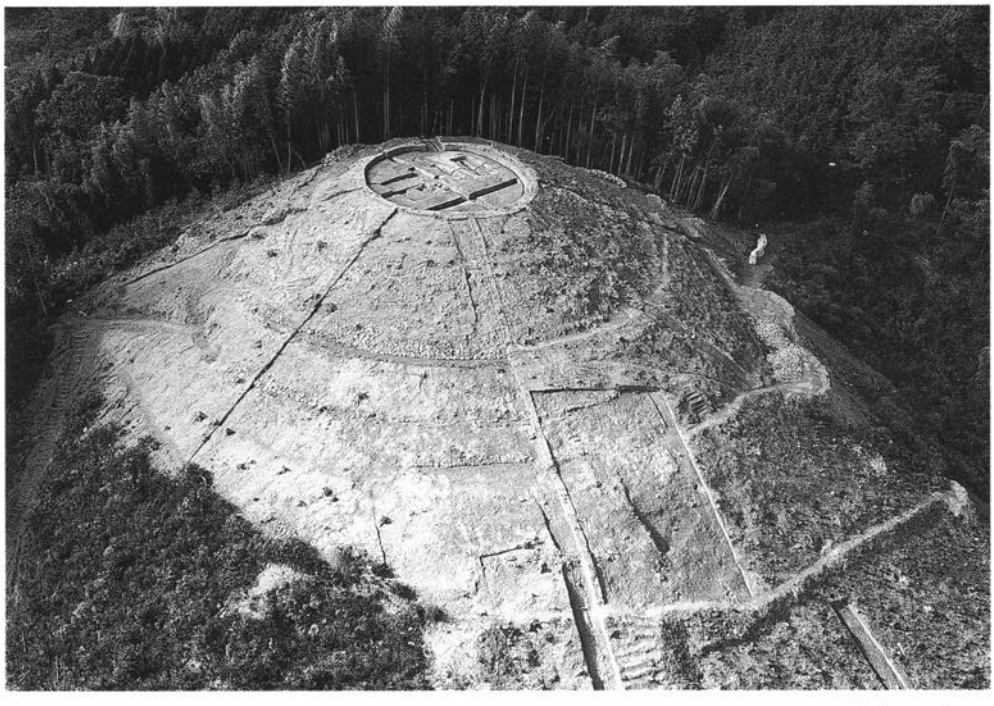


かんざし

私市円山古墳（きさいちまるやま こふん）

（㈶京都府埋蔵文化財調査研究センター）

古墳時代中期
綾部市私市町



調査地全景（南東から）

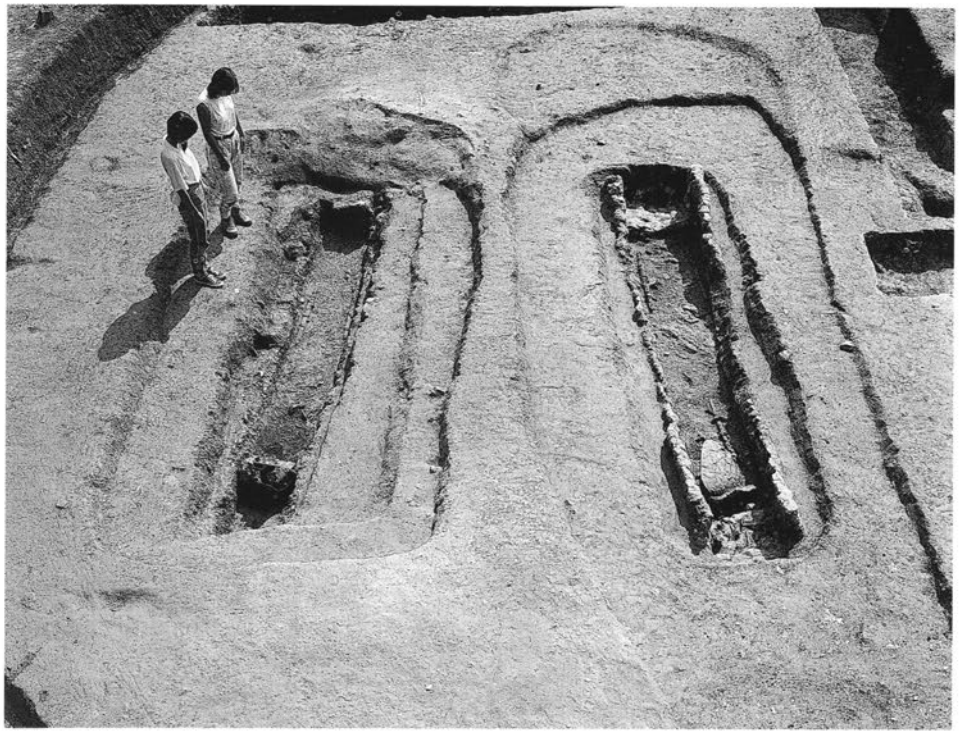
大円墳発見，丹波の王墓

私市円山古墳は，綾部市の西部，福知山市境に近い由良川北岸の丘陵上に位置する，造り出しを持つ大型の円墳です。墳丘の大きさは，直径71m・高さ10mで，南側の造り出しを含めると，全長81mとなり府内で最大の規模をほこります。

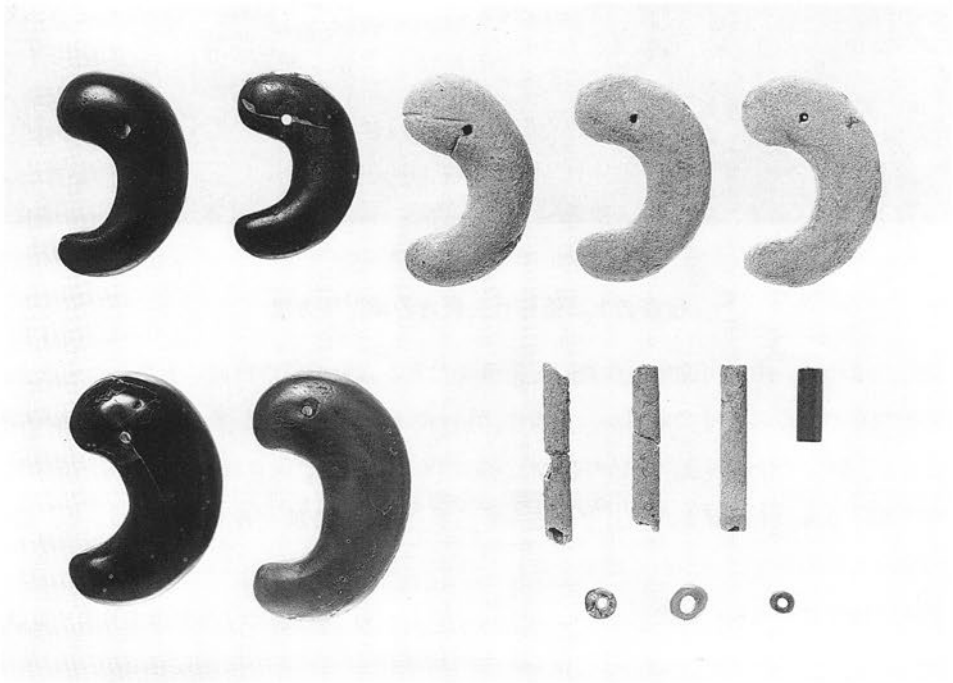
墳丘には二段の平坦面があり，そこには，円筒埴輪や朝顔形埴輪が墳丘をとりまくようにならべてあります。また，墳丘の斜面には河原石が全面に葺かれていました。墳丘頂部からは，三つの埋葬施設が確認され，その二つはともに長さ４mの木棺で，多くの副葬品が納められていました。

主な副葬品は，冑・頸甲（あかべよろい）・肩甲（かたよろい）・短甲・金で飾られた胡籙（やなぐい）（矢を入れて腰から下げる入れ物）・鉄剣・鉄刀・鉄鏃・鏡・農工具類・玉類・竪櫛（たてぐし）などで，特に胡籙は，韓国にも類例のある精巧なものです。この古墳は，５世紀中ごろ（今から約1,550年前）に造られたと考えられます。

また，この古墳は，関係者の努力により全面保存されることが決まっています。



主体部検出状況

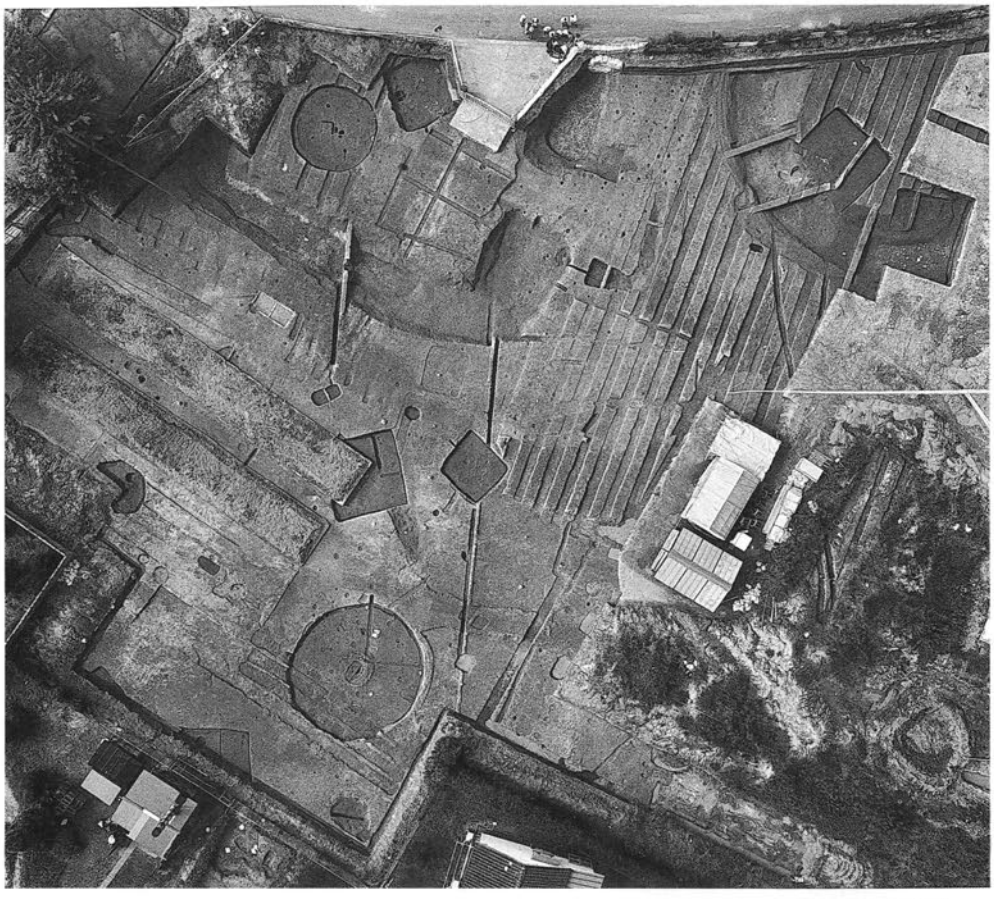


玉類

あおのにしいせき
青野西遺跡

（第３次調査・綾部市教育委員会）

弥生時代～古墳時代
綾部市青野町



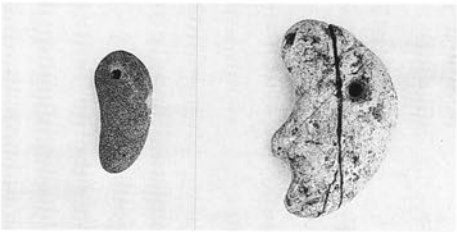
調査地全景

住居の上に造られた最古の前方後方墳

青野西遺跡は，由良川流域の代表的な集落跡である青野遺跡の西側にあたります。今回の発掘調査では，弥生時代末期から古墳時代初めの竪穴式住居跡７基と古墳２基がみつかりました。竪穴式住居跡は，円形のものと方形のものがあり，保存状態のよいものが多く，火事で焼けたものも確認されました。さらに円墳と前方後方墳が各々１基みつかり，前方後方墳は古墳の発生にかかわる重要な資料を提供しました。

竪穴式住居跡や古墳の周濠部からヒスイ製の勾玉，壺，甕，高杯などが出土しています。

古式土師器



勾玉(左：砂岩製，右：ヒスイ製)

弥生土器

青野西遺跡（あおのにしいせき）

（第4次調査・㈶京都府埋蔵文化財調査研究センター）

古墳時代～平安時代
綾部市青野町

調査地全景（東から）

ムラを切り裂く地震の跡

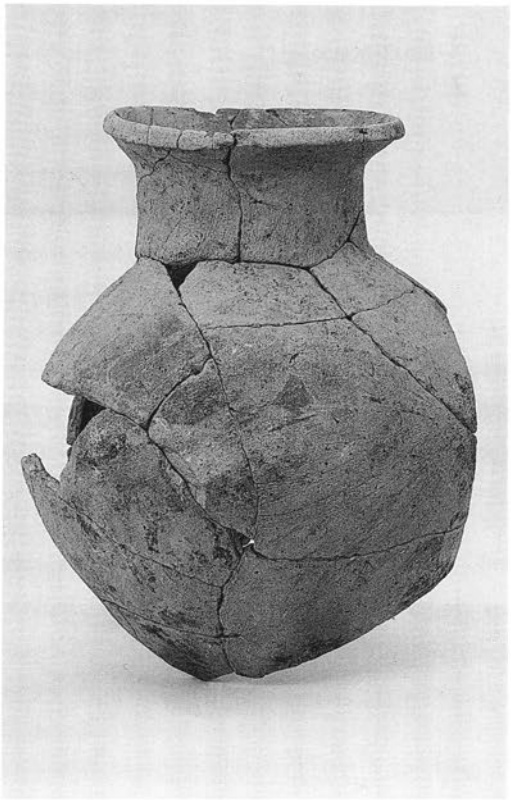
青野西遺跡の第4次調査は，第3次調査地の北方，由良川南岸の堤防に面したところで実施されました。今回の発掘調査では，古墳時代初頭～前期の竪穴式住居跡3基，土師器の甕，平安時代中期の掘立柱建物跡2棟と溝数条，さらに古代の地震の跡（噴砂）がみつかりました。これらの遺構にともなって，土師器の甕，高杯，器台，椀や黒色土器椀，ふいごの羽口などが出土しました。

過去の調査例とあわせてこの遺跡は，大規模な集落跡であることがあらためて確認されました。

弥生土器・器台

弥生土器・高杯

弥生土器・壺



弥生土器・壺

千代川遺跡（ちよかわいせき）

（第14次調査・㈶京都府埋蔵文化財調査研究センター）

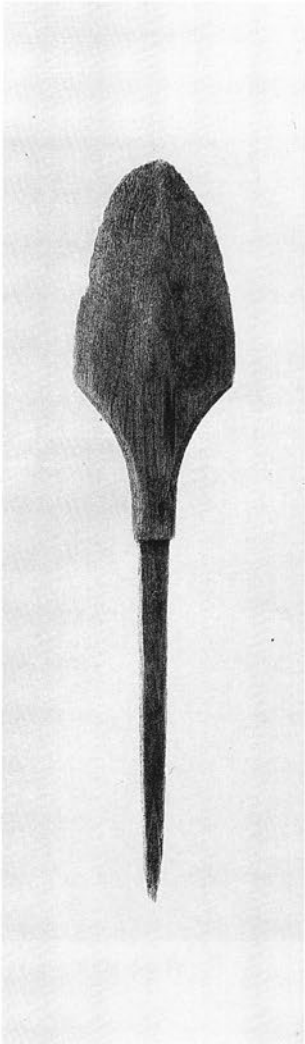
弥生時代～鎌倉時代
亀岡市千代川町

調査地全景（北から）

丹波国府を掘る

千代川遺跡は，亀岡市の西北，大堰川西岸の平野部に位置します。以前の発掘調査で，縄文時代から中世に至る複合遺跡であることが知られており，また奈良時代の丹波国の国府（古代に国ごとにおかれた中心的な役所，今の府庁のようなもの）跡と推定されているところです。今回の調査では，弥生時代から中世に至る自然流路跡，国府の範囲の北を限る溝跡，平安時代の掘立柱建物跡のほか，鎌倉時代の遺構などがみつかりました。平安時代の掘立柱建物跡は，比較的規模の大きいもので，この時期にも重要な施設が存在した可能性があります。

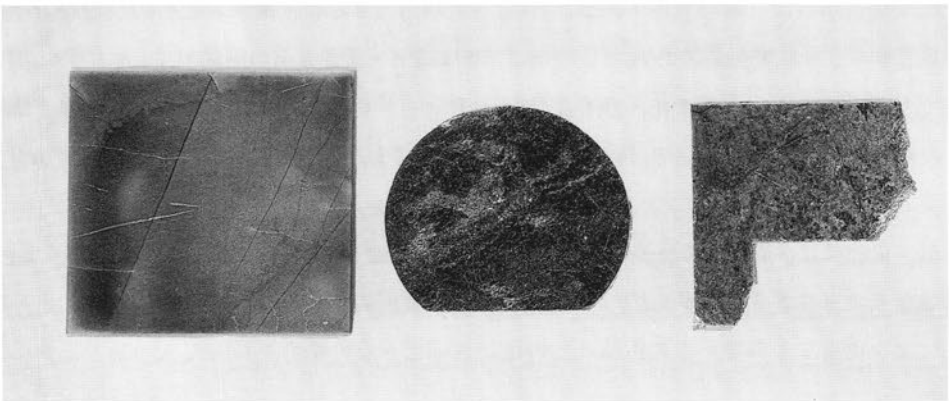
特に，国府の北を限る溝跡から出土した石帯（せきたい）（古代のベルトを飾る装飾具）は珍しいものです。また，自然流路から出土した古墳時代の木製やじりも注目されます。



木製やじり

墨書土器

瓦器椀



石帯

医王谷1号墳（亀岡市教育委員会）

古墳時代後期
亀岡市下矢田

石室全景（東から）

金銅馬具と子持器台をもつ首長墓

医王谷古墳群は，亀岡盆地の南部，JR亀岡駅の南約2㎞の，南から北へのびる丘陵上に位置します。今回発掘調査された1号墳は，直径23m・高さ3mの円墳です。周辺の古墳の中でも規模の大きいものです。埋葬主体は，チャートや砂岩で木棺を安置する部屋を築造した全長12mの横穴式石室で，床面には石が敷かれており，その下に排水するための溝を設けています。

出土遺物には，須恵器の子持器台，杯蓋，高杯，台付長頸壺，提瓶，坩や金銅装の馬具，鉄鏃などがあります。これらのうち，子持器台や金銅装の馬具などはこの付近であまり出土しない貴重なもので，この古墳はこの地においてかなり勢力を持った人の墓ではないかと考えられます。

須恵器・壺

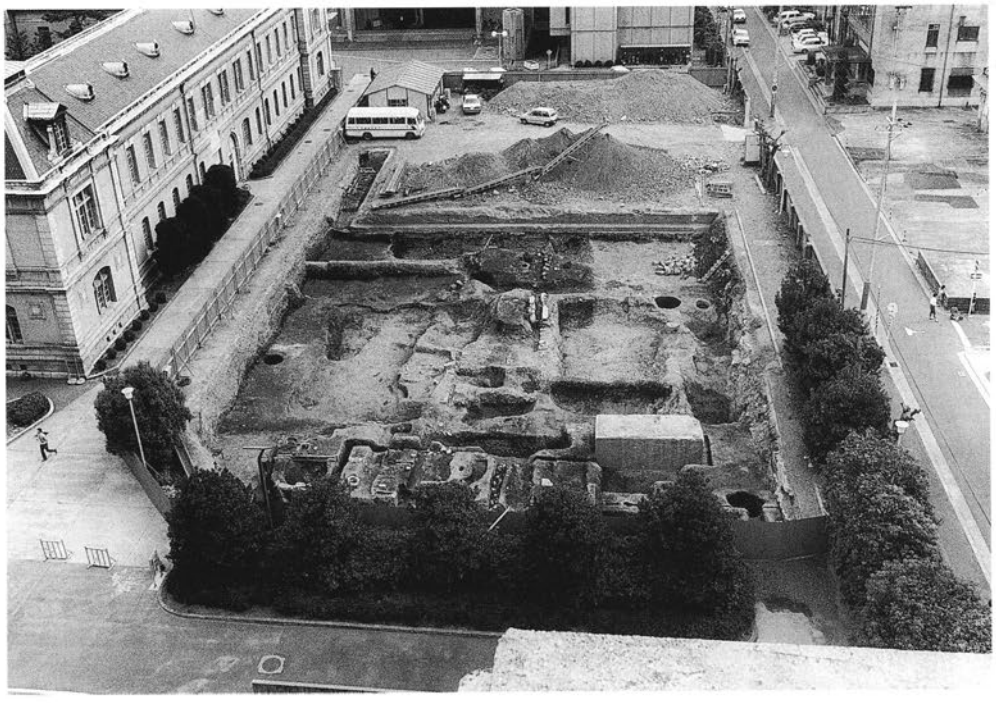
須恵器・子持器台

馬具類

へいあんきょうあと
平安京跡

（㈶京都府埋蔵文化財調査研究センター）

平安時代～江戸時代
京都市上京区



調査地全景（北から）

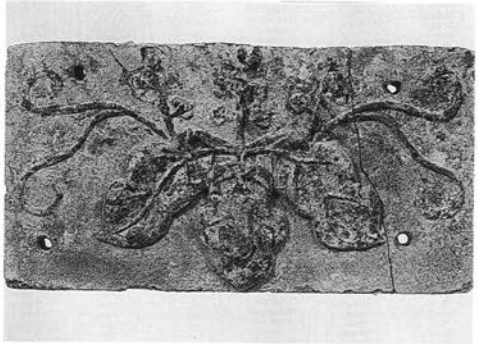
千年間の町の変遷が判明

調査地は京都市上京区の府庁旧館西側で，平安京左京の近衛大路と西洞院大路のちょうど交差点に当たります。この調査では，平安時代から江戸時代までの各時代の遺構・遺物がみつかりました。南北に走る西洞院大路は，平安時代には幅24mありましたが，室町時代末期の戦国時代には，幅17mとなり，江戸時代にはさらに5mと狭くなっています。これは，宅地が道路部分にものびていったことを示しています。道路両側の溝は，戦国時代には，堀のように深く掘っており，町を防御する目的があったようです。さらに，安土桃山時代の屋敷跡や江戸時代の町屋，京都守護職の屋敷跡などがみつかりました。

出土遺物の中では，平安時代の灰釉陶器，緑釉陶器，中国製の青磁，安土・桃山時代の金箔瓦，江戸時代の華南三彩盤（カラー口絵）などが珍しいものです。

緑釉軒丸瓦

白磁椀



金箔瓦

京焼椀

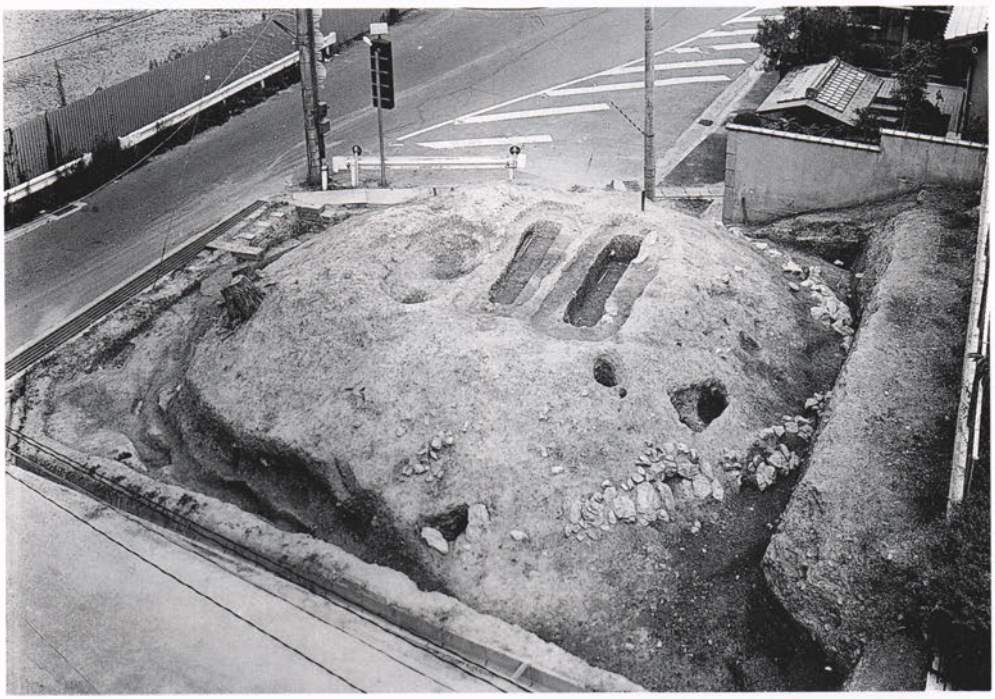
青花磁器・椀

唐津椀

青白磁・壺

幡枝（はたえだ）2号墳（ごうふん）　（㈶京都市埋蔵文化財研究所）

古墳時代中期
京都市左京区岩倉



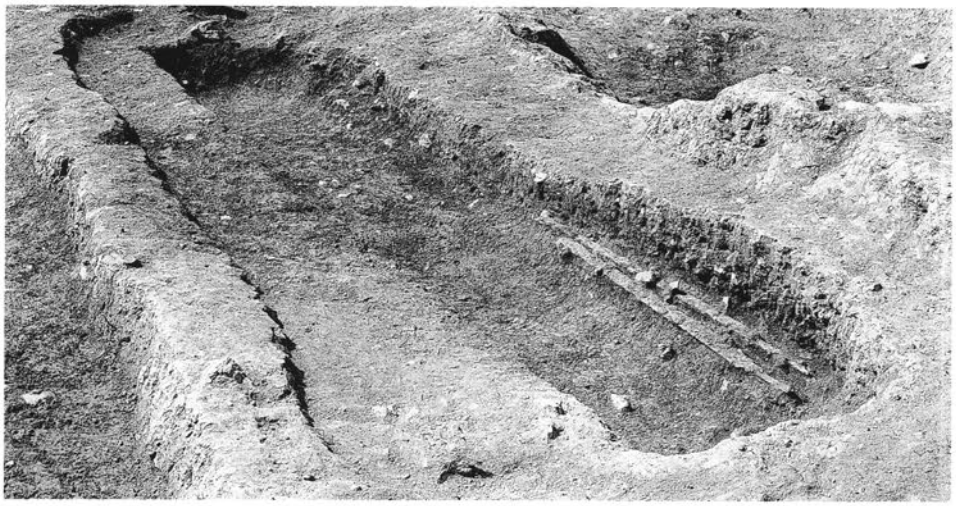
古墳全景

古式須恵器が供献された古墳

幡枝古墳群は，京都盆地の北側に接する，岩倉盆地の南西にあります。この古墳の西側にあった1号墳からは，「夫火竟」と刻まれた銅鏡が出土したことで有名です。

今回調査された2号墳は山麓に位置し，墳丘はすべて盛土で造られた円墳です。その規模は直径12m・高さ約2.4mあり，周囲に周溝がめぐらされ，墳丘斜面には葺石が葺かれていました。

墳頂部から東西に並んだ2基の埋葬施設がみつかりました。東側の棺は長さ3.0m・幅0.65mの組合式木棺を直葬したもので，棺内から鉄剣や挂甲（けいこう）の小札がみつかりました。西側の棺は長さ3.2m・幅0.6mの組合式木棺を直葬したもので，棺内から鉄剣，鉄刀，土器がみつかりました。また，棺上の盛土の中からたくさんの須恵器の杯，蓋，高杯，壺，甕，甑（はそう）などが出土しました。これらは，埋葬後に墳丘上に供献された土器群とみられます。この須恵器の形式からこの古墳は5世紀後半に築造されたものとわかりました。



西棺全景

須恵器・杯

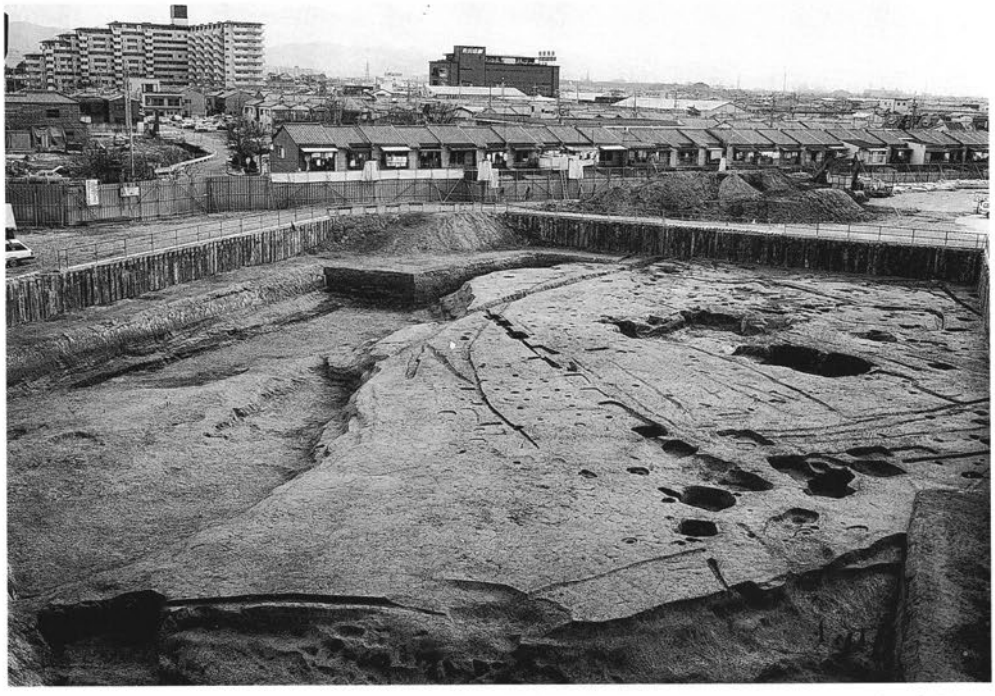
須恵器・高杯

須恵器・高杯

ながおかきょうあと
長岡京跡

（左京第203次調査・㈶京都市埋蔵文化財研究所）

長岡京期
京都市南区東土川



調査地全景

造営材などが記された木簡が多数出土

桂川右岸の低地にあたる長岡京左京一条三坊で行われた，長岡京左京第203次調査地で，弥生時代後期～古墳時代前期の竪穴式住居跡，溝，流路などが，飛鳥時代～奈良時代前半の流路，長岡京期の掘立柱建物跡，柵列跡，流路，平安時代～中世の掘立柱穴跡，井戸，溝など多彩な遺構と多量の遺物が出土しました。

その中でとくに，長岡京期の流路から多量の木簡（もっかん）が出土して注目されました。この流路は，北から南へ流れ，調査地内で南東に流れの方向を変えるもので，その規模は幅15m以上，延長50m以上，深さ1.0～1.6mありました。木簡は流路の西肩の3か所から集中して出土しました。木簡と木簡の削り屑は千点以上におよび，「督曹司（とくそうし）」「近衛府（このえふ）」「太政官（だいじょうかん）」などの役所名，「酒人内親王（さかひとないしんのう）」「神王（みわおう）」「守山王（もりやまおう）」「紀朝臣（きのあそん）」などの人名，「槫（くれ）」「長押（なげし）」などの造営の材木が記されたものがありました。これらから，材木の陸あげ地や物資の集積場，さらに付近に材木の収納などをつかさどる役所の存在などが想定されています。

木簡

ながおかのみやあと
長岡宮跡

（第205次調査・㈶京都府埋蔵文化財調査研究センター）

奈良時代～長岡京期
向日市鶏冠井町

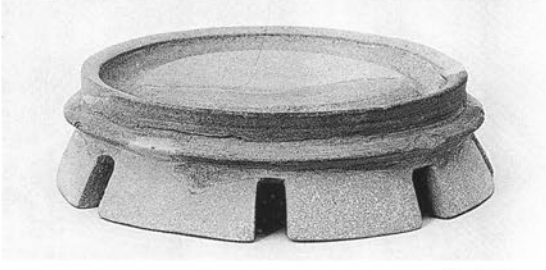
調査地全景（西から）

掘立柱建物，乙訓郡衙？

調査地は，向日市鶏冠井町の大極殿跡の西側にあたります。

この地は，長岡宮の豊楽院跡に想定されており，また乙訓郡衙の跡とも考えられています。調査の結果，奈良時代の掘立柱建物跡や土坑などがみつかりました。

主な出土遺物は，須恵器，土師器，円形の硯などです。



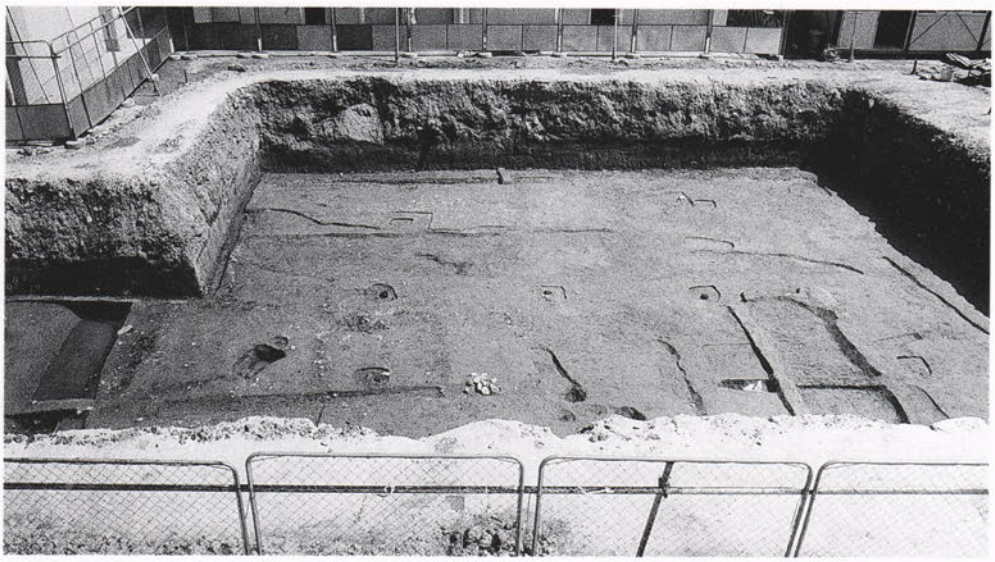
円面硯

ひょうそく

ながおかきょうあと
長岡京跡

（左京第202次調査・㈶京都府埋蔵文化財調査研究センター）

長岡京期
向日市上植野町



調査地全景（西から）

都大路の橋

調査地は府立向陽高校の敷地内にあります。長岡京の町割りで言うと左京四条二坊にあたります。

この調査では，三条大路の南の側溝とその溝に橋をかけるための矢板，杭などがみつかり，長岡京期の漆（うるし）を入れた土器や漆塗りの曲物などが出土しました。

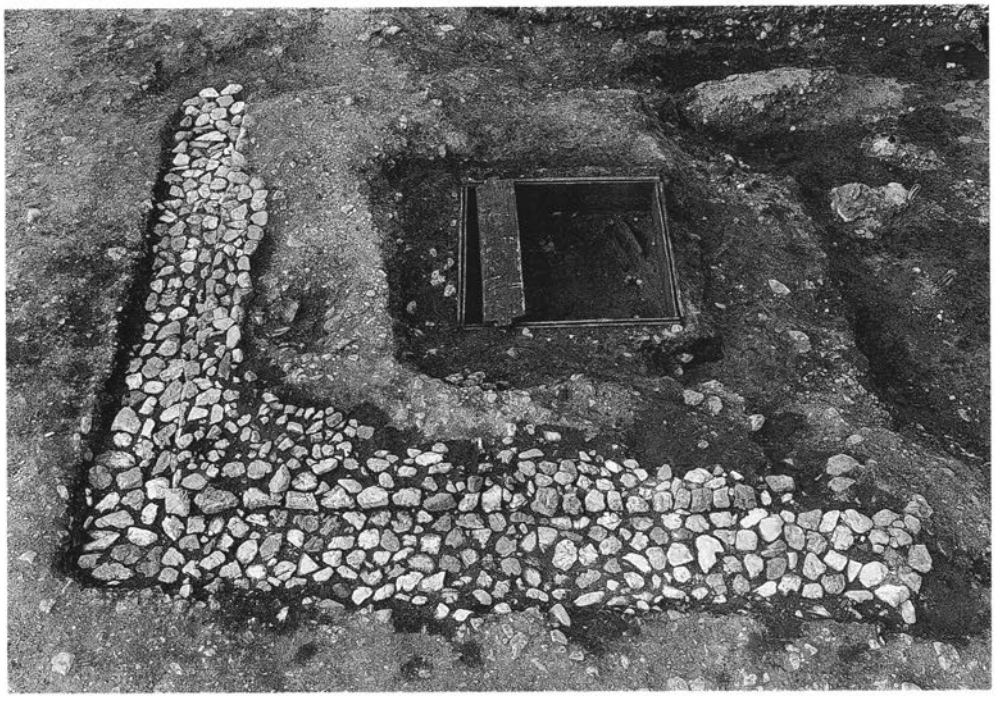
土師器・高杯

須恵器・杯（漆入れ）

ながおかきょうあと
長岡京跡

（右京第310次調査・㈶京都府埋蔵文化財調査研究センター）

長岡京期
長岡京市今里



井戸検出状況(南から)

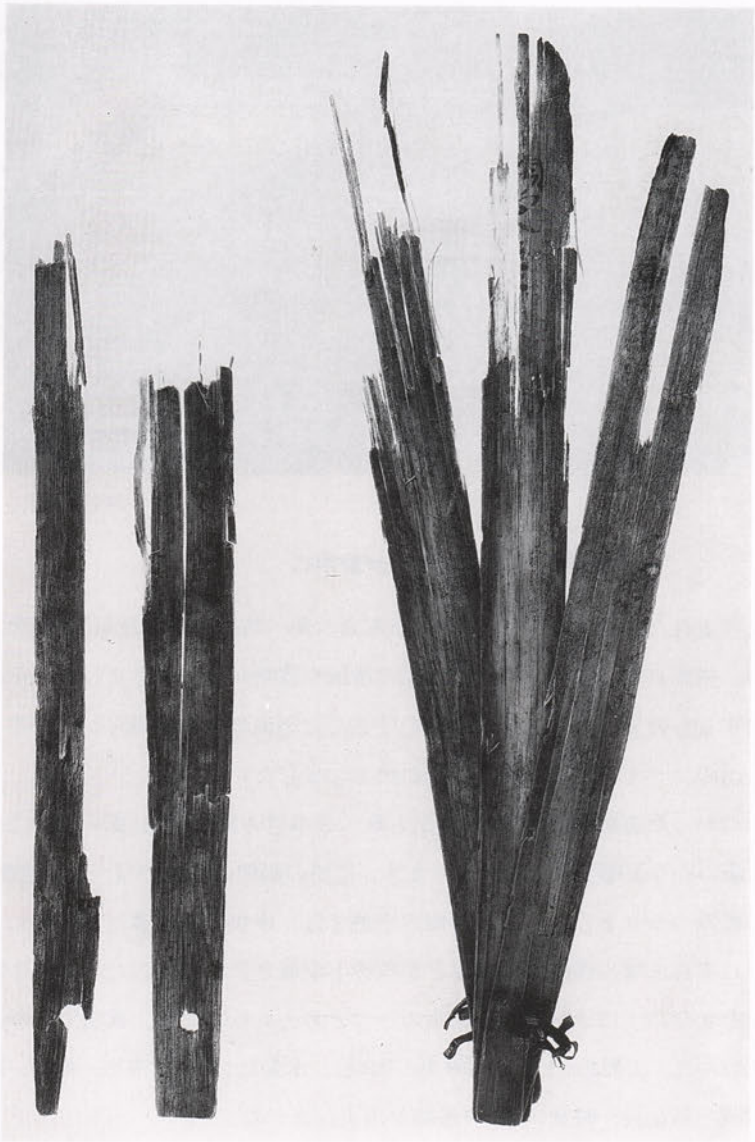
都大路の下からみつかった建物・井戸・木簡

長岡京市の小畑川西方，今里・井ノ内地区の発掘調査です。長岡京の町割りでいうと，右京二条二坊にあたります。調査の結果，長岡京にともなうものでは西二坊大路の東側の溝，車の通ったわだちの跡，二条条間大路の南の溝などがみつかりました。このうち西二坊大路では，地盤の弱いところに直径10～30cmの大量の丸太材を敷いて，路盤(ろばん)を改良した跡があり，このような例は長岡京でははじめてです。また，西二坊大路と二条条間大路の辻の真ん中からは，井戸１基が確認されました。この井戸は，長さ1.4mの板を組み合わせた井籠組(せいろうぐ)みの井戸で，周囲に石敷(いしじき)の溝をめぐらすなど精巧なものです。

長岡京期に埋められた自然の流れの中から，「御曹司(おんそうし)」「御司召(おんつかさめす)」「流人(るにん)」などの文字を記した木簡，「園司(そののつかさ)」，「園宅(そののやけ)」と墨書された土器がみつかりました。このことは，長岡京ができる以前に周辺に公的な建物があったらしいことをしめしており，注目されます。

墨書土器「宮□」

墨書土器「□司」



檜扇(ひおおぎ)

木簡

ながおかきょうあと
長岡京跡

（左京第204次調査・㈶長岡京市埋蔵文化財センター）

長岡京期
長岡京市神足

調査地全景

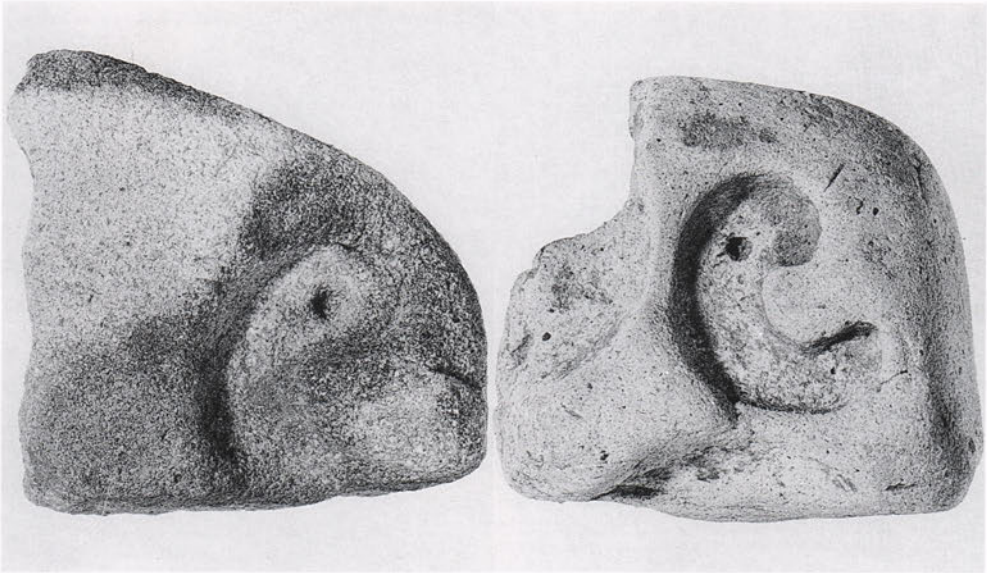
長岡京内の宅地のようすが鮮明に

小畑川と桂川にはさまれた低地に位置する，長岡京左京六条一坊の長岡京左京第204次調査では江戸時代以降，長岡京期，古墳時代の３時期の遺構や遺物がみつかりました。その大半は長岡京期に属するもので，南北方向の小路をはさんだ宅地の様相が明らかになるとともに，そこでの生活のようすを示す多彩な遺物が出土しました。

調査地の中央でみつかった道路跡は，朱雀大路から東へ３本目の南北道路（東一坊第二小路）で，路面幅（両側溝の心々距離）約9.3mを測ります。道路の両側の宅地では，溝，建物，井戸などの遺構が多数みつかりました。この西側の宅地では，中央の東西溝によって，２区画に分けられ，それぞれ広場の周囲に建物などが整然と配置されていました。この１区画は，一町分の敷地を８分の１に分割された区画の一つと考えられました。建物周辺や井戸の中などから，土器，瓦，土製品（土馬，紡錘車，陶硯），木製品（檜扇，斎串，横櫛，独楽），金属製品（小銅鏡，帯金具，銭貨）などの遺物が出土しました。

芝ヶ本遺跡（向日市教育委員会）

古墳時代前期
向日市上植野町



ガラス勾玉鋳型（左：砂岩製，右：土製）

ガラス勾玉鋳型と石釧の出土した集落

芝ヶ本遺跡は，桂川右岸の低地に位置する古墳時代前期～後期の集落跡です。1986年に行った長岡京跡左京第145次調査の際，下層から大量の古墳時代前期の遺物が出土し初めて遺跡であることが確認されました。特に，一緒に出土したガラス勾玉鋳型と凝灰岩質砂岩製の石釧は全国的にみても珍しい資料として注目されます。

ガラス勾玉鋳型は，砂岩製のものと土製のものがあります。いずれも長軸3.7cm・短軸3.5cm分残っています。砂岩製の鋳型は，表に3個体，裏に1個体の勾玉の形が掘り込まれています。鋳型が赤変していることから，実際にガラス勾玉を鋳造したものと考えられます。土製の鋳型は，表に3個体の勾玉の形が残っていますが，裏にはありません。鋳型中央に残る勾玉は唯一完全な形に復原できるもので，長さ2.0cm・厚さ0.5cmを測ります。鋳造は，勾玉の頭部に残る小さな穴に金属棒を立て，溶解ガラスを流し込んで行います。勾玉鋳型は，弥生時代で4遺跡6例が出土していますが，古墳時代では初めての発見です。芝ヶ本遺跡には当時としてはめずらしいガラス鋳造という特殊技術を持ち，乙訓地方を代表する豪族と強い結び付きをもった人々が居住していたのです。

勝龍寺城跡（しょうりゅうじじょうあと）

（財）長岡京市埋蔵文化財センター

戦国時代
長岡京市勝龍寺

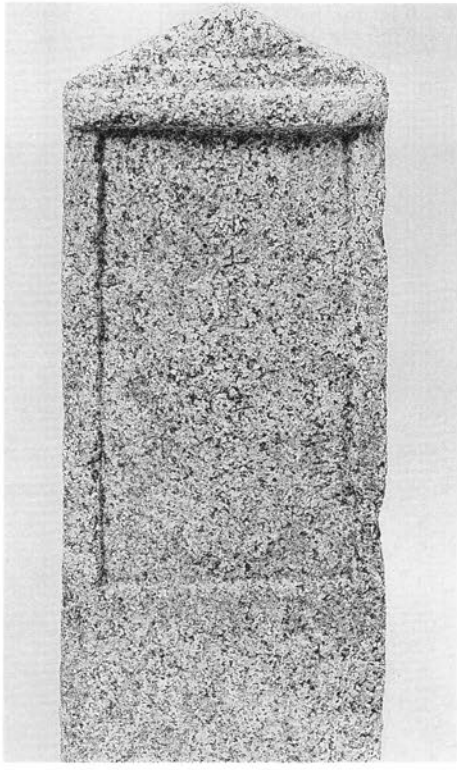
北門桝形（ますがた）検出状況

近世城郭への歩みを語る遺構

勝龍寺城跡は桂川の右岸の低地に位置し，現在まで堀や土塁（どるい）を良好に残している代表的な中世城郭（じょうかく）として知られています。この城は，南北朝時代の暦応（りゃくおう）2（1339）年細川頼春が築城したと伝えられ，後に元亀（げんき）2（1571）年細川藤孝が入り，大改修工事をしました。天正10（1582）年本能寺の変後の山崎合戦では明智光秀が入城しました。その後，廃城となり，城の石垣は淀城に運ばれたと伝えられています。江戸時代には，一時永井直清2万石の大名の居城となった記録などがあります。

今回の発掘調査は，公園整備にともなって，本丸と西側の沼田丸（ぬまたまる）を対象として，大規模に行われました。その結果，元亀2年の改修後の遺構が主に検出されました。本丸を囲む堀，北門の桝形，北東部の隅櫓（すみやぐら）や土塁裾，沼田丸の堀の一部等に本格的な石垣が使用され，建物群には礎石や瓦葺き等の使用が認められるなど，複雑な構造と堅固な造りになっており，予想以上に本格的な城郭であることが判明しました。

永禄9年(1566)銘一石五輪塔



天文元年(1532)銘名号板碑

鬼瓦と鳥衾瓦

瓦器茶釜

軒丸瓦と軒平瓦

山城国府跡（やましろこくふあと）　（大山崎町教育委員会）

平安時代
大山崎町大山崎

平安時代の井戸と木樋の溝

交通の要衝のにぎわいを示す多彩な遺物

大山崎の地は，京都盆地への西の入口として，古来交通上の重要な施設が造られてきました。とくに，長岡京や平安京に遷都されると，その重要性はますます増加し，山崎橋に加えて，山崎津，山崎駅，離宮，国府などの施設が相次いで置かれました。

昭和62・63年度に行われた国府推定地の14・15次調査では，東西方向の古代の山陽道の北側溝とみられる溝と，その北側に展開した施設群の一部が検出されました。それらは，多数の掘立柱建物の柱穴群，井戸，大木をくり貫いて作った木樋の溝などで，さらに調査地の西端では，敷地を区画する南北方向の溝とそれに平行する築地状の遺構などがみつかりました。小面積の調査地にもかかわらず，多種多量の遺物が出土しています。とくに，南北溝からは，緑釉陶器（りょくゆうとうき），灰釉陶器（かいゆうとうき），土師器，輸入陶磁器，銭貨が多量に出土し，銭貨は皇朝十二銭が全種類，286枚も出土しました。その他「體雲近□」などと書かれた文字瓦，各種の軒瓦，銙帯金具（かたいかなぐ），用途不明の金銅製金具などが出土しています。

高麗寺跡（こまでらあと）　（山城町教育委員会）

飛鳥時代～平安時代
山城町上狛

風鐸の鋳型

青銅器や瓦の製作工房を発見

木津川右岸の段丘上にある高麗寺跡は，山城最古の寺跡として著名で，国の史跡に指定されています。史跡の指定範囲は伽藍（がらん）の一部であるため，昭和59年以来寺域全体の範囲を確認するための発掘調査が行われました。最終年度の５年目に当たる昭和63年度には，寺域の北限を確認するための調査と，回廊（かいろう）跡や瓦窯の調査が行われました。

寺域の北限を確認する調査では，南限築地（ついぢ）の北200m付近まで寺域が広がっていることがわかりました。この寺域北方部の調査では，寺域内に金属工房が置かれていたことがわかったのは，注目すべき大きな調査成果でした。そこでは，大小２種類の風鐸（ふうたく）の鋳型（いがた）が多量に出土しました。小さい風鐸の鋳型は，長さ17cmの風鐸を作るためのもので，塔の相輪を飾った風鐸とみられました。大きい方は，長さ23cmあり軒下用です。回廊跡の調査では北西隅が良好な状況で検出されました。また，寺域の東限の外側で，平安時代の補修用の瓦を焼いた瓦窯がみつかりました。

小田垣内遺跡（おだがいといせき）

（㈶京都府埋蔵文化財調査研究センター）

室町時代
田辺町普賢寺

調査地全景

土塁に封じこめられた石仏

小田垣内遺跡は，田辺町の西南，普賢寺（ふげんじ）谷の丘陵上に位置する中世の城館，墓地跡です。発掘調査の結果，遺跡は14世紀から16世紀初めまで墓地として使用され，その後16世紀末まで城館として機能していたことがわかりました。墓地に関するものとしては，石仏，五輪塔，及び蔵骨器（遺骨を入れる容器）などがみつかっており，この地の有力な名主（みょうしゅ）や国人（こくじん）たちの墓と考えられています。特に石仏４体については，当時のままに立った状態で土塁（どるい）に埋めこまれていました。城館については，３つの郭と土塁，空堀（からぼり）を築いていました。

なお，付近には，織田信長と戦った大西氏の居城があり，何らかの関係がうかがえます。

石仏出土状況

石仏

宮の下遺跡（みやしたいせき）　（田辺町教育委員会）

弥生時代
田辺町宮津

調査地主要部全景

南山城初の弥生時代前期の集落

宮の下遺跡は木津川左岸の低地に営まれた弥生時代～中世の集落跡で，鉄道の車庫が建設されることになり，昭和61～63年度に発掘調査が行われました。その結果，弥生時代前期の土坑群，弥生時代中期～後期の方形周溝墓，古墳時代の竪穴式住居跡，奈良時代の大規模な掘立柱建物跡群，平安時代の井戸，中世の井戸など各時代の遺構がみつかりました。

とくに，弥生時代前期の土坑が10基以上のほか，溝，炉跡などが検出されたのは注目されました。今まで南山城では，弥生時代前期の土器は，断片が１・２点出土したことはあっても，まとまって出土したことは全くありませんでしたが，今回遺構にともなってかなりの量の土器が出土しました。弥生時代前期の住居跡は検出されませんでしたが，これによって弥生時代前期に南山城でも集落が営まれていたことが実証されました。出土した弥生土器は，壺，甕，鉢，蓋などで，弥生時代前期でも後半の特徴である，沈線文（ちんせんもん），貼付突帯文（はりつけとつたいもん）等の文様があります。

弥生土器・壺蓋

弥生土器・甕蓋

弥生土器・壺

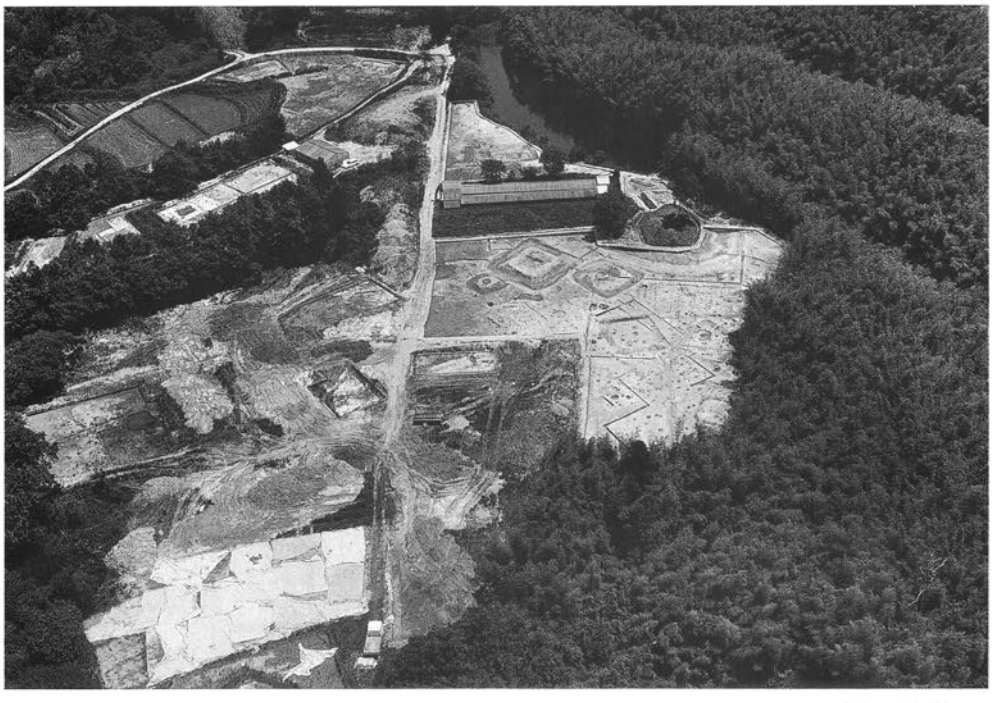
弥生土器・甕

弥生土器・壺各種文様

しょうにんがひらいせき
上人ヶ平遺跡

（㈶京都府埋蔵文化財調査研究センター）

古墳時代～奈良時代
木津町市坂



調査地全景

古墳群と埴輪工房

上人ヶ平遺跡は，木津町の南端の台地上に位置する複合遺跡で，今までに16基の古墳，埴輪を焼いた窯跡，奈良時代の建物跡などが確認されています。

古墳は，南と北の２つのグループに分けることができ，今まで14基が発掘調査されています。古墳の大部分は小さなものばかりですが，遺物は，馬形（カラー口絵），蓋形（きぬがさがた），盾形などの多彩な形象埴輪をもつことが特徴です。この古墳群は５世紀中ごろから６世紀前半に造られたと考えられます。

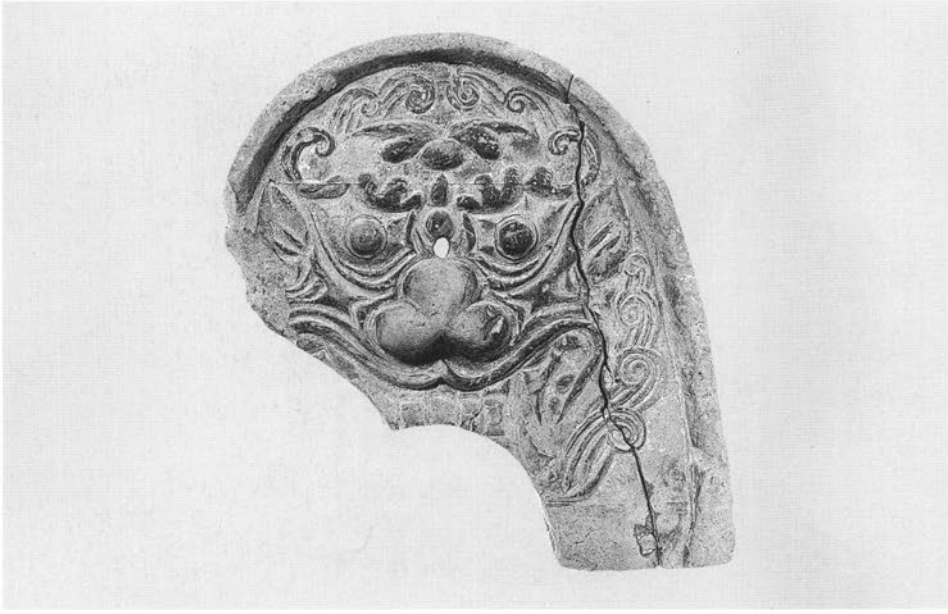
この古墳群の近くで丘陵の斜面をトンネル状にくり抜いた地下式の埴輪窯が新たに発見され注目を集めました。この窯跡の中からは，円筒埴輪や形象埴輪（盾，家，鶏，蓋）など多数の埴輪が出土しました。埴輪の窯跡と，そこで焼いた埴輪をならべた古墳とが近接していることはきわめて注目されます。

また奈良時代の遺構としては掘立柱建物跡，溝，井戸などがありますが，これらの建物跡は一定の企画のもとに整然と配された状況が確認されており，隣接する市坂瓦窯（いちさかがよう）に関する管理運営施設とみられます。

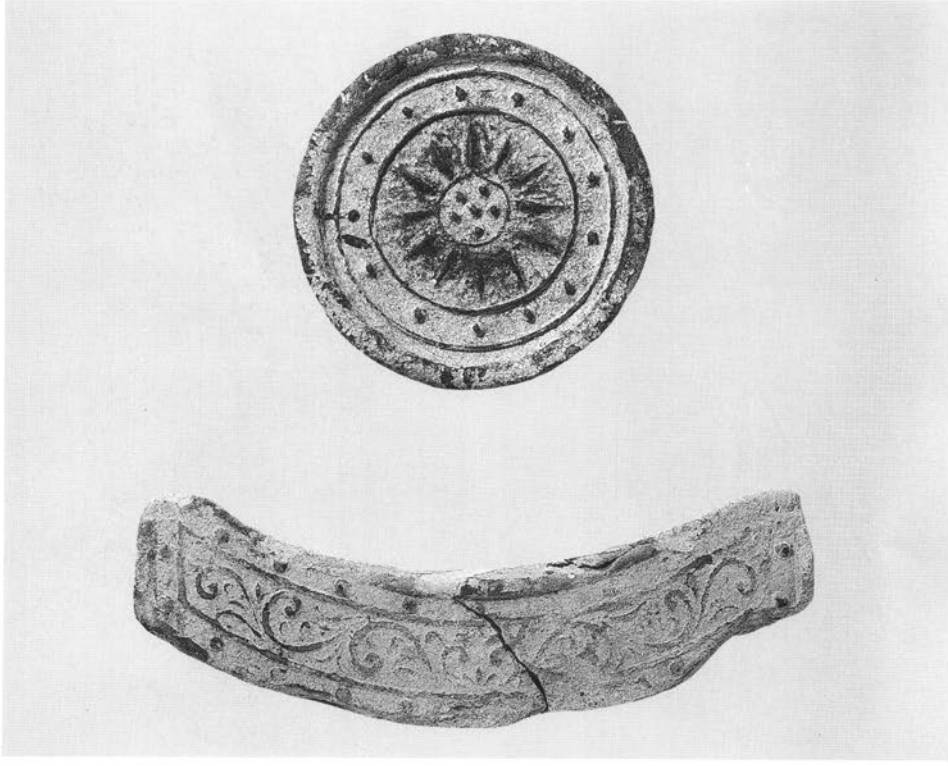
家形埴輪

円筒埴輪

蓋形埴輪



鬼瓦



軒丸・軒平瓦

幣羅坂古墳（へらさかこふん）

（㈶京都府埋蔵文化財調査研究センター）

古墳時代中期
木津町市坂

調査地全景

玉類，竪櫛をもつ木棺直葬墳

幣羅坂古墳は，上人ヶ平遺跡を見おろす丘陵の先端部に築かれた古墳です。表面が土取りのために削られていて，正確な形はわかりませんが，発掘調査の結果，東西30m・南北20m・高さ2mの規模を持つことがわかりました。埋葬主体は木棺を直接納めたもの（木棺直葬）です。出土した遺物には，円筒埴輪，形象埴輪（家，盾，短甲，冑），鉄刀，刀子，勾玉（まがたま），管玉（くだたま），ガラス小玉，竹で作った竪櫛（たてぐし）などがあります。

これらのことから，この古墳は5世紀はじめから中ごろに築造されたもので，隣接する上人ヶ平古墳群より先に築かれたものと考えられます。

その他の注目された遺跡

鳥居前古墳　鳥居前古墳は大山崎町円明寺鳥居前の丘陵上に所在する古墳時代前期の帆立貝形の前方後円墳です。過去2回の調査によって，墳丘全長約50m，後円部の直径約40m，高さ7mの規模で，後円部頂上には竪穴式石室が築かれていたことなどがわかりました。昭和63年度には，大阪大学によって前方部先端，後円部斜面，後円部頂上などの調査が行われました。この調査によって，前方部側面の墳丘裾の葺石の外側にも葺石状の列石がみつかりました。古墳の築造過程を究明する上で貴重な資料となるものです。

二子塚古墳　二子塚古墳は宇治市五ケ庄大林の平地に所在する古墳時代後期の前方後円墳です。古くに後円部を削平され，前方部のみが残されている古墳ですが，昭和62年度の発掘調査などにより，二重周濠を巡らし，前方部が著しく発達した典型的な後期の前方後円墳で，墳丘全長約110mの規模を有することなどがわかりました。昭和63年度の宇治市教育委員会の調査では後円部中央にあった横穴式石室の基礎工事のようすが明らかになりました。それは，東西18.5m以上・南北8.5m以上・深さ約3.5mの土坑の中に大きな礫を何段も敷き詰めるという大規模かつていねいなものでした。

鳥居前古墳前方部墳丘裾の葺石と下方の列石

恭仁宮跡　恭仁宮は天平12(740)年に聖武天皇によって営まれ，わずか4年で廃都になった短命の都です。京都府教育委員会の昭和62年度の朝堂院南端部の調査で南限を区画する柵列が検出されました。昭和63年度の調査では，この柵列につながる門を検出することができました。

二子塚古墳後円部横穴式石室基礎土坑と礫群

恭仁宮跡朝堂院南門東半部の柱穴群

展示品目録

番号	遺跡名	出展遺物	点数	時代
1	日光寺遺跡	青磁椀	2	鎌倉時代
2	遠所古墳群	須恵器	13	古墳時代中・後期
		土師器	3	〃
3	休場古墳	須恵器	9	古墳時代・後期
		紡錘車	1	〃
		金環	1	〃
		刀子	2	〃
		玉類	17	〃
4	温江遺跡	はしご	2	弥生時代・後期
		弥生土器	7	〃
		土錘	2	〃
7	桑飼上遺跡	有孔円板	2	弥生～古墳時代
		土師器	5	〃
		玉類	一括	〃
8	興遺跡	分銅形土製品	1	弥生時代・中期
		かんざし	1	〃
9	私市円山古墳	玉類	3連	古墳時代・中期
11	青野西遺跡（第4次）	土師器	4	古墳時代・前期
12	千代川遺跡（第14次）	木製品	2	弥生時代
		土師器	1	古墳時代
		石帯	4	奈良時代
		緑釉陶器	1	平安時代
		須恵器	2	平安～鎌倉時代
		墨書土器	2	平安～鎌倉時代
		瓦器	2	鎌倉時代
14	平安京跡	緑釉瓦	1	平安時代
		すり鉢	1	室町時代
		金箔瓦	1	安土桃山時代
		華南三彩盤	1	江戸時代
		椀	4	〃
		壺	1	〃
17	長岡宮跡第205次	須恵器	7	長岡京期
		円面硯	1	〃
		鉢	1	〃
		土師器	1	〃
		ひょうそく	1	江戸時代
18	長岡京跡左京第202次	須恵器	3	長岡京期
		墨書土器	2	〃
		土師器	2	〃
19	長岡京跡右京第310次	墨書土器	4	奈良～平安時代
		木簡	1	〃
		檜扇	1	〃
25	小田垣内遺跡	石仏	3	室町時代
27	上人ヶ平遺跡	埴輪	4	古墳時代・中期
		軒丸・軒平瓦	2	奈良時代
		鬼瓦	1	〃
		墨書土器	1	〃
28	幣羅坂古墳	玉類	一括	古墳時代・中期
以上，㈶京都府埋蔵文化財調査研究センター				
5	鴨谷東1号墳	埴輪	3	古墳時代・中期
		土師器	3	〃
以上，立命館大学文学部				
6	作山古墳群	埴輪	1	古墳時代前・中期
		埴輪片	1	〃
		土製品	25	〃
以上，加悦町教育委員会				
10	青野西遺跡（第3次）	土師器	7	古墳時代・前期
		土師器片	7	〃
		勾玉	2	〃
以上，綾部市教育委員会				
13	医王谷1号墳	須恵器	17	古墳時代・後期
		馬具	9	〃
以上，亀岡市教育委員会				
15	幡枝2号墳	須恵器	7	古墳時代・中期
		鉄剣	2	〃
		鉄刀	2	〃

番号	遺跡名	出展遺物	点数	時代
16	長岡京跡 左京第203次	木簡	4	長岡京期
		木器	5	〃
		鉄鏃	1	〃
		刀子	1	〃
		墨書土器	4	〃
以上，京都市考古資料館				
20	長岡京跡 左京第204次	銭貨	15	長岡京期
		銅鈴	1	〃
		小銅鏡	1	〃
		銙帯金具	1	〃
		鉄釘	5	〃
		檜扇	1	〃
		斎串	2	〃
		横櫛	2	〃
		手斧の柄	1	〃
		錐の柄	1	〃
		独楽	1	〃
		漆器	2	〃
		ミニチュア土器	3	〃
22	勝龍寺城跡	永禄9年銘一石五輪塔	1	戦国時代
		天文元年銘名号板碑	1	〃
		双体石仏	1	〃
		軒丸瓦	1	〃
		軒平瓦	1	〃
		鬼瓦	1	〃
		輸入染付磁器	4	〃
		瓦器茶釜	1	〃
		鉄砲玉	5	〃
		刀子のサヤ	1	〃
22		刀のサヤジリ	1	戦国時代
以上，長岡京市教育委員会				
21	芝ヶ本遺跡	ガラス勾玉・鋳型	2	古墳時代・前期
		勾玉複製	3	〃
		石釧	1	〃
		土師器	5	〃
		須恵器	1	古墳時代・後期
以上，向日市教育委員会				
23	山城国府跡	銭貨	25	平安時代
		墨書土器	1	〃
		軒丸瓦	2	〃
		文字瓦	2	〃
		銙帯金具	2	〃
		緑釉陶器	8	〃
		灰釉陶器	1	〃
		青磁	1	〃
		須恵器	1	〃
以上，大山崎町教育委員会				
24	高麗寺跡	風鐸鋳型	6	奈良時代
		線刻平瓦	1	〃
以上，山城町教育委員会				
26	宮の下遺跡	弥生土器	4	弥生時代・前期
		弥生土器片	11	〃
以上，田辺町教育委員会				

謝　辞

本展覧会を開催するにあたっては，財団法人向日市埋蔵文化財センターから多大の御助力を賜りました。また，資料の調査・出展などに次の諸機関の御助力を得ました。記して深く謝意を表します。

立命館大学文学部・大阪大学文学部・加悦町教育委員会・綾部市教育委員会・亀岡市教育委員会・財団法人京都市埋蔵文化財研究所・京都市考古資料館・向日市教育委員会・財団法人向日市埋蔵文化財センター・長岡京市教育委員会・財団法人長岡京市埋蔵文化財センター・大山崎町教育委員会・宇治市教育委員会・田辺町教育委員会・山城町教育委員会・京都府教育委員会

展覧会出品遺跡位置図

1. 日光寺遺跡
2. 遠所古墳群
3. 休場古墳
4. 温江遺跡
5. 鴨谷東1号墳
6. 作山古墳群
7. 桑飼上遺跡
8. 興遺跡
9. 私市円山古墳
10. 青野西遺跡(第3次)
11. 青野西遺跡(第4次)
12. 千代川遺跡(第14次)
13. 医王谷1号墳
14. 平安京跡
15. 幡枝2号墳

16. 長岡京跡(左京第203次)
17. 長岡宮跡(第205次)
18. 長岡京跡(左京第202次)
19. 長岡京跡(右京第310次)
20. 長岡京跡(左京第204次)
21. 芝ヶ本遺跡
22. 勝龍寺城跡
23. 山城国府跡
24. 高麗寺跡
25. 小田垣内遺跡
26. 宮の下遺跡
27. 上人ヶ平遺跡
28. 幣羅坂古墳
29. 鳥居前古墳
30. 二子塚古墳
31. 恭仁宮跡

(表紙写真：私市円山古墳)

主　催　財団法人　京都府埋蔵文化財調査研究センター

協　賛　向　日　市　文　化　資　料　館

後　援　京　都　府　教　育　委　員　会

1989.8.19(土)～9.3(日)